

福島県文化財センター白河館

年報 2 0 1 2

～平成 2 3 年度実績～

財団法人福島県文化振興事業団

福島県文化財センター白河館

年報 2012 の発刊によせて

館長 菊池 徹夫

平成 23 年 3 月に東日本大震災が発生して 1 年余り経過しましたが、まだまだ復興にはほど遠い状況にあります。被災された方々、原発事故で苦しみに遭われている方々には、心からお見舞い申し上げます。

平成 23 年度は、東日本大震災による被害への対応に終始しました。

当館にとって一番の財産ともいえる出土品等を保管している収蔵庫で建物を支える柱の一部に被害があったために使用禁止となりました。また野外の展示施設も被害が大きく立ち入りを制限せざるを得ませんでした。4 月末まで休館として、震災により混乱した館内を整理し、また既に作成していた年間の事業計画を大幅に見直すなどしたうえ、頻発する余震を気にしながら、収蔵庫及び野外展示施設を除いて、5 月 1 日には再開館しました。

震災に原発事故が重なって生活が大変な中であって、23 年度 22,528 人もの方々が来館され、季節ごとの「イベント」や様々なモノづくりを体験する「実技講座」「文化財研修」「文化財講演会」など数多くの事業に参加し、学び、楽しんでいただきました。

「企画展」は 4 回実施しました。年度の初めは大震災の余震などの心配もあり、他の博物館等からの借り入れは控えて、白河館所蔵の「収蔵資料展」を実施しました。再開館日から 7 月まで「新編陸奥国風土記 卷之九 安達郡」、7 月から 11 月に大災害を被った浜通りの人達に少しでも元気づけになればと「発掘された浜通りの遺跡」、11 月から 2 月に収蔵資料を年代ごと、あるいは用途ごとに展示した「器の変遷」を開催。3 月にはようやく他の機関の所蔵資料を借用して「指定文化財展 三島町荒屋敷遺跡」を行うことができました。

館外においては、体験学習を中心とした「おでかけまほろん」を積極的に実施し、体験した子どもさんは開館以来初めて 1,000 人を超えました。また初めて福島市にある県立図書館施設の展示コーナーを借用して石器や縄文土器等を展示、多くの方々に関心を持っていただきました。

今般の大震災のために 7 月に迎えた開館 10 周年を記念する式典等を実施することはできませんでしたが、震災発生直後から「元気発信」を合い言葉に、様々な企画を実施してまいりました。今後とも、本県復興の一助となりますよう、文化財の活用などを通じ県民の皆さんに元気を発信し続けてまいりたいと考えております。



開館 10 周年記念 館長講演会（平成 23 年 7 月 17 日）



東日本大震災により被災し、修繕を終えた「縄文時代の家」（平成 24 年 3 月 26 日）

目次

第1章 まほろんの概要……………	1	3. 緊急雇用創出基金事業……………	23
1 まほろんの業務……………	1	4. 博物館学外実習……………	23
2 まほろんの沿革……………	1		
3 平成23年度の主な行事……………	2	第3章 平成23年度の組織と予算……………	24
4 東日本大震災の影響……………	2	1 組織……………	24
		2 予算……………	24
第2章 管理業務の実施状況及び利用状況	3		
1 利用状況……………	3	第4章 まほろん施設の概要……………	25
1. 利用者数……………	3		
2. 入館者数の内訳と傾向……………	4	第5章 まほろんの条例・規則……………	27
2 維持管理に関する業務……………	5	1 福島県文化財センター白河館条例…	27
1. 建築物・設備・環境衛生・		2 福島県文化財センター白河館条例	
外構等保守管理業務……………	5	施行規則……………	27
2. 施設・設備等の修繕状況……………	5		
3. 備品・物品管理業務……………	5	まほろんの利用案内……………	28
3 文化財の収蔵・保管に関する業務…	6		
1. 収蔵資料……………	6		
2. 資料貸し出し……………	6		
3. 写真掲載等承認……………	6		
4. 資料閲覧……………	7		
4 文化財の活用に関する業務……………	8		
1. 常設展示……………	8		
2. 企画展示……………	9		
3. 講演会等……………	14		
4. 体験学習……………	14		
5 文化財に関する情報発信……………	18		
1. ホームページによる情報発信……………	18		
2. データベースによる情報提供……………	18		
3. まほろん通信の発行……………	19		
6 文化財に関する研修事業……………	19		
1. 研修実施の概要……………	19		
2. 研修実施状況……………	19		
7 文化財の活用に関する調査研究……………	21		
1. 研究復元制作……………	21		
8 ボランティアの運営……………	22		
1. 募集……………	22		
2. 登録……………	22		
3. 活動内容……………	23		
4. 受け入れ体制……………	23		
9 その他……………	23		
1. 年報2011の発行……………	23		
2. 運営協議会の開催……………	23		

第1章 まほろんの概要

1 まほろんの業務

まほろん（福島県文化財センター白河館）は、福島県が設置した文化施設で、平成13年7月に開館し、平成23年7月には開館10周年を迎えた。

まほろんは、福島県教育委員会が発掘調査した遺跡で出土した遺物や記録写真や図面などの資料を収蔵・管理し、それを展示・体験学習等に活用するとともに、文化財を担当する市町村職員等の文化財研修、文化財に関する情報発信等の役割を担っている。

福島県では、開館から平成17年度まで（財）福島県文化振興事業団に業務を委託していたが、平成18年度から指定管理者制度を導入して、管理の業務を行う法人等を広く公募し、平成18年度から平成20年度まで（第1期）、平成21年度から平成25年度まで（第2期）、財団法人福島県文化振興事業団が管理業務を行っている。

指定管理者が行う業務は、以下の通りである。
○考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。

○文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。

○文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。

○文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。

○文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。

○考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。

○白河館の維持管理に関すること。

○上記の他に、福島県教育委員会が別に定める業務に関すること。

まほろんは、全国に先駆けて設立された県単位の埋蔵文化財収蔵保管施設であり、またこの貴重な文化財を様々な形で活用する施設でもある。「遺跡から学ぶ自然と人間のかかわり」をメインテーマとして、“見て・触れて・考え・学ぶ”

体験型ミュージアムを目指している。

2 まほろんの沿革

平成6年度

福島県文化財保護審議会が、「福島県文化財センター（仮称）整備基本構想報告書」を答申

平成8年度

「福島県文化財センター白河館（仮称）基本計画」策定

平成11年11月

施設愛称を公募し「まほろん」に決定

平成13年3月27日

福島県文化財センター白河館条例及び施行規則制定

平成13年4月1日

福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託

平成13年7月15日

福島県文化財センター白河館開館記念式典

平成16年2月28日 入館者10万人到達

平成18年4月1日

「福島県文化財センター白河館 指定管理者」として福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託（平成21年3月31日まで）

平成19年4月14日 入館者20万人に

平成21年4月1日

「福島県文化財センター白河館 指定管理者」として福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託（平成26年3月31日まで）

平成22年4月25日 入館者30万人に

平成22年9月10日

開館以来館長を務めた藤本強館長が急逝。平成23年3月31日まで館長職を福島県文化振興事業団富田孝志理事長が兼務

平成23年3月11日

東日本大震災発生。収蔵庫・野外展示施設など被災。4月30日まで休館。

平成23年4月1日 菊池徹夫新館長就任

平成 23 年 5 月 1 日

震災被害により使用不可となった収蔵庫及び
野外展示施設を除き、再開館

3 平成 23 年度の主な行事

平成 23 年 5 月 1 日～7 月 3 日

収蔵資料展「新編陸奥国風土記 巻之九 安
達郡」

平成 23 年 7 月 16 日～11 月 20 日

収蔵資料展「発掘された浜通りの遺跡」

平成 23 年 7 月 17 日

開館 10 周年記念 館長講演会

平成 23 年 7 月 31 日 まほろん夏まつり

平成 23 年 11 月 6 日 まほろん秋まつり

平成 23 年 11 月 26 日～平成 24 年 2 月 19 日

収蔵資料展「器の変遷」

平成 23 年 12 月 4 日 まほろん餅つき大会

平成 24 年 2 月 19 日 まほろん冬まつり

平成 24 年 3 月 10 日～5 月 20 日

指定文化財展「ふくしまの重要文化財Ⅸ 三
島町荒屋敷遺跡」

4 東日本大震災の影響

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の影響で、4 月 30 日まで臨時休館した。この間、被災した常設展示室の展示物などの整理や 23 年度の事業計画の大幅な見直しを行い、5 月 1 日に再開館した。

なお、東日本大震災による被害状況は、以下

のとおり。

1. 常設展示室

「暮らしのうつりかわり―昭和 40 年代」の食卓を再現したコーナーで展示物の一部が破損したため、代替品で対応した。

2. 野外展示施設

◆縄文時代の家

周堤部の崩落、小屋組み・茅屋根の崩れ

◆前方後円墳

石室入口の崩落、円墳上部の陥没

◆奈良時代の家

周堤部の崩落、カマドの亀裂

◆奈良時代の倉庫

入口扉の脱落、海老錠のシャフトの曲がり

これらは、平成 24 年 3 月 26 日までに福島県による修繕工事が完了した。

3. 一般収蔵庫

ブレースの破断、柱脚に被害（ベースモルタルの破壊等）があった。また、壁面にひび割れが生じ、福島県が実施した危険度判定により立ち入りが制限された。収蔵庫は平成 24 年 5 月 15 日までに福島県による修繕工事が完了した。

なお、収蔵資料については、収納箱を収めた棚に落下防止ベルトを設置していたため、大きな被害はなかった。ただ、国指定重要文化財の法正尻遺跡出土縄文土器のはがれなどが生じた。



「奈良時代の倉庫」入口 被害状況



落下防止ベルト設置状況

第2章 管理業務の実施状況及び利用状況

1 利用状況

1. 利用者数

平成23年度の総利用者数は、24,731名（22年度35,284名）で、その内訳は入館者数が22,528名（22年度28,231名）、館外利用者数が2,203名（22年度7,053名）となり、入館者数・館外利用者数とも前年度より大幅に減少した。

入館者数については、平成23年3月の東日本大震災の影響で4月は臨時休館としたため年間開館日は平年より26日ほど少なく、また震災直後の福島第一原子力発電所事故も大きく影響して、団体客・一般客ともに激減した。特に一般客は対前年比24.5%の減少となった。

県外からの入館者数は、前年度の約半分、全体入館者数の11%程度となった。

震災・原発事故直後という環境の中で、文化財を通して被災地を元気づけようと、「発掘された浜通りの遺跡」の展示や、様々なイベント・実技講座・体験活動などを実施し、また、これらにかかる広報も、イベント時の近隣小学校全生徒へのチラシ配布や県南地域小学校への直接訪問などきめ細かく行った。この結果、再開館した5月～3月の前年同期対比では入館者数は12%の減にとどまった。

また、館外利用も震災等の被害のあった浜通りばかりでなく福島県内全ての地域で利用を希望する団体が少なかった。こんな中、少しでも

子ども達を元気づけようと「おでかけまほろん」を積極的に実施し、利用者は前年度より12校多い39校において前年度より231人増加し、開館以来初めて1,000人を超した。



「発掘された浜通りの遺跡」



おでかけまほろん

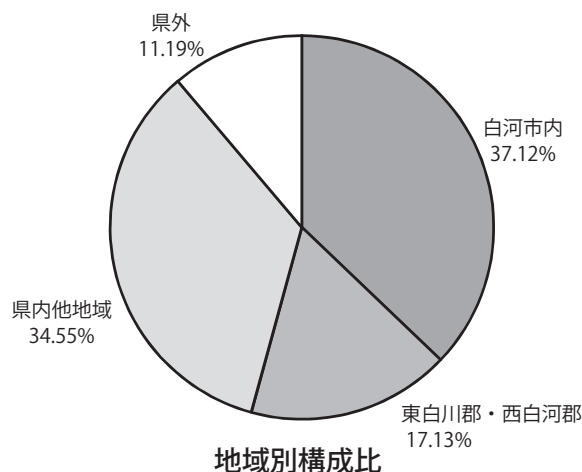
月別入館者数

	平成23年度							平成22年度	
	開館日数	幼児	小中学生	高校生	一 般	入館者数	館外利用者数	入館者数	館外利用者数
4月	0	11	10	0	37	58	0	2,779	170
5月	26	130	812	13	983	1,938	259	3,376	32
6月	26	59	1,013	16	1,026	2,114	381	2,582	1,349
7月	28	172	868	29	1,424	2,493	190	2,953	2,405
8月	30	146	573	34	1,206	1,959	264	3,053	1,534
9月	26	204	1,939	5	1,450	3,598	721	2,845	151
10月	26	247	835	37	1,474	2,593	263	2,874	60
11月	25	89	706	13	1,408	2,216	45	2,038	215
12月	23	165	273	6	840	1,284	26	1,791	788
1月	23	45	383	9	753	1,190	20	1,210	279
2月	25	145	540	12	1,062	1,759	28	1,984	0
3月	27	65	188	27	1,046	1,326	6	746	70
合計	285日	1,478人	8,140人	201人	12,709人	22,528人	2,203人	28,231人	7,053人

2. 入館者数の内訳と傾向

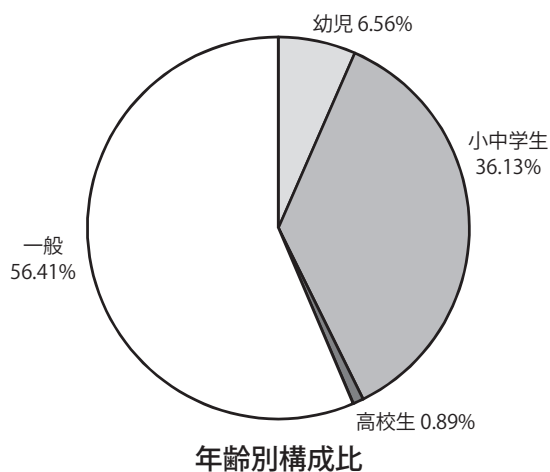
(1) 地域別利用状況

入館者の地域別利用者は、県内が89%（うち、白河市37%）、県外が11%であった。福島県の補助事業「ふくしまっ子体験活動応援事業」を利用した学校利用や浜通り地域から県内



に一時避難している方々が企画展等の観覧・体験活動のために来館された結果と考えられる。

他方県外からは、震災直後という社会環境や原発事故後の放射能への懸念ということからか、前年度の半数程度の入館者となった。



団体利用者一覧

団 体			平成 23 年度													平成 22 年度
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	合計
学校関係	幼稚園・保育園	園数				1		2	4						7	4
		入館者数				14		156	164						334	168
	小学校	学校数		14	15	5	1	21	8	7	1	5	6		83	80
		入館者数		542	741	358	50	1,504	595	444	28	136	365		4,763	4,596
	中学校	学校数			3	1		2		1		1			8	21
		入館者数			128	21		193		39		168			549	711
	高等学校	学校数							1	2					3	7
		入館者数							26	105					131	144
	養護学校	学校数				1			1						2	3
		入館者数				12			17						29	54
	大学	学校数								1					1	6
		入館者数								29					29	186
	小中高PTA （保護者のみ）	学校数													0	1
		入館者数													0	30
小中高PTA （親子レク等）	学校数			2	3		3	1		1			1	11	9	
	入館者数			97	104		122	55		79			25	482	453	
生涯学習関係	研究会	会数								2		2		4	2	
		入館者数								35		27		62	48	
	子ども会	会数			1	3	3	1						8	11	
		入館者数			21	145	41	79						286	405	
	公民館等	館数			4	2	3	4	5	6	1		3	2	30	37
		入館者数			97	117	61	127	73	106	17		38	64	700	1,049
社会福祉関係	福祉施設・デイ ケアサービス	団体数	1	1	1	1	2		2	1		1	1		11	13
		入館者数	12	12	11	10	23		24	19		12	11		134	187
文化団体関係	資料館等	館数						1	1						2	3
		入館者数						43	52						95	101
	歴史研究	団体数						1	1				1		3	6
		入館者数						16	40				13		69	187
行政機関関係	県・市町村・ 教委・審議会等	団体数			1							2	1	1	5	10
		入館者数			16							28	5	9	58	234
その他	その他	団体数			5	7	1	4	11	17	1	2	3	1	52	63
		入館者数			64	135	26	112	246	302	16	67	71	11	1,050	1,451
合計	団体数		1	15	32	24	10	39	35	37	4	13	15	5	230	276
	団体入館者数		12	554	1,175	916	201	2,352	1,292	1,079	140	438	503	109	8,771	10,004
総入館者数			58	1,938	2,114	2,493	1,959	3,598	2,593	2,216	1,284	1,190	1,759	1,326	22,528	28,231
団体利用者の割合			20.69%	28.59%	55.58%	36.74%	10.26%	65.37%	49.83%	48.69%	10.90%	36.81%	28.60%	8.22%	38.93%	35.44%

(2) 年齢別利用状況

児童・小中高校生が全体の44%を占め、対前年度より4ポイントの増加となった。しかし実人数では前年より減少しており、一般の方々の減り方がより大きかったといえる。

(3) 団体利用状況

団体の入館者総数は230団体で、前年度より46団体、約17%の減少となった。一般観光・市町村・公民館等の利用減少が大きく、震災等の影響が非常に大きかったものと考えられる。

ただし、23年度団体利用の54%を占める小学校は前年より増加しており、先述の「ふくしまっ子応援事業」や、地道な学校訪問などの成果が現れたものと推察される。

2 維持管理に関する業務

1. 建築物・設備・環境衛生・外構等保守管理業務

「福島県文化財センター白河館の維持管理に係る業務仕様書」に則し、下記のとおり実施した。

- (1) 空調設備点検業務／山田設備工業(株)
- (2) 消防設備保守点検業務／大槻電気通信(株)
- (3) 簡易型昇降機及びリフター保守点検業務／(株)ハイン
- (4) 自動ドア保全業務／昭和建産福島販売(株)
- (5) 自家用電気工作物保安管理業務／(有)メンテナンス東北
- (6) 展示用及び講堂用AV機器保守点検業務／(株)オリエンタル・エージェンシー
- (7) 植栽管理業務／(有)永野造園
- (8) 清掃業務／タイセークリーン(株)
- (9) 警備業務／福島総合警備保障(株)
- (10) 電話設備等保守点検／(有)テレメディア東北

2. 施設・設備等の修繕状況

- (1) 23年4月8日 野外施設修繕(「縄文時代の家」「奈良時代の倉庫」「製鉄炉」)
- (2) 23年6月27日 エントランス屋外機水電動弁交換修繕

- (3) 23年8月10日 収蔵庫鉄骨柱脚部 無収縮モルタル補強 応急処置修繕
- (4) 23年8月12日 奈良時代の倉庫 扉撤去・入口閉鎖 応急処置修繕
- (5) 23年8月26日 特別収蔵庫 送風機モーター取替修繕
- (6) 23年9月5日 消防設備修繕(屋内外消火栓 消防用ホース)
- (7) 23年9月6日 常設展示室・特別展示室 出入口 防火扉の修繕
- (8) 23年11月9日 特別収蔵庫 蒸気加湿器取替修繕
- (9) 23年12月22日 会議室・一般展示室GHP 室外機水電動弁交換修繕
- (10) 24年1月30日 野外展示施設案内表示板 書替修繕
- (11) 24年3月5日 誘導灯・非常灯設備不備修繕
- (12) 24年3月23日 野外設備修繕(本館正出入口 上部外壁塗装・雪止め、南側出入口 上部雪止め、体験学習館 外壁クラック)
- (13) 24年3月30日 電話設備修繕



野外展示施設案内表示板

3. 備品・物品管理業務

基本協定書別表「管理財産一覧」について、東日本大震災によって毀損した備品・物品等を修繕し適正に管理するよう努めた。

3 文化財の収蔵・保管に関する業務

1. 収蔵資料

	遺 物	写 真	図 面	地図・カード類	無形の文化財関連	合 計
一般収蔵庫	42,458	2,992	1,003	520	10	46,983
特別収蔵庫	471					471
合 計	42,929	2,992	1,003	520	10	47,454

※1 一般収蔵庫の収容能力は最大 66,000 箱

※2 特別収蔵庫には保存処理済みの木質遺物・金属製遺物を収納

2. 資料貸し出し

(1) 遺 物

貸出期間	貸 出 先	資 料 名	数量
平 23.4.1 ～ 平 24.3.31	株式会社日本フットボールヴィレッジ（常設展示）	榎葉町美シ森 B 遺跡出土弥生土器	3
平 23.4.1 ～ 平 24.3.31	福島県立博物館（常設展示）	桑折町平林遺跡出土旧石器ほか	1,239
平 23.4.1 ～ 平 24.3.31	須賀川市立博物館（常設展示）	須賀川市梅田横穴古墳群出土須恵器	1
平 23.4.1 ～ 平 23.9.8	東北電力株式会社原町火力発電所（常設展示）	南相馬市鳥打沢 A 遺跡出土土師器・須恵器・羽口ほか	24
平 23.4.1 ～ 平 24.3.31	国立歴史民俗博物館（常設展示）	天栄村桑名邸遺跡出土縄文土器	3
平 23.4.1 ～ 平 24.3.31	国立科学博物館（常設展示）	飯館村日向南遺跡出土縄文土器ほか	8
平 23.4.1 ～ 平 24.3.31	郡山市教育委員会（大安場史跡公園常設展示）	郡山市弥明遺跡出土石器	5
平 23.4.1 ～ 平 24.3.31	福島県立博物館（テーマ展「ふるさとの考古資料 2 【会津美里町】 遺跡探訪」）	会津美里町下堀遺跡出土墨書土器ほか	6
平 23.4.1 ～ 平 24.3.31	文化庁（「発掘された日本列島 2011」）	湯川村桜町遺跡出土弥生土器ほか	3
平 23.4.1 ～ 平 23.6.30	南相馬市博物館（企画展「古代陸奥国 行方の郡家」）	南相馬市鳥打沢 A 遺跡ほか	17
平 23.6.29 ～ 平 23.9.27	仙台市富沢遺跡保存館（企画展「動物の考古学」）	小野町沢目木 B 遺跡出土縄文土器ほか	6
平 23.8.24 ～ 平 24.3.30	福島県立博物館（ポイント展「注口土器のはじまり」）	本宮市高木遺跡出土縄文土器ほか	5
平 23.8.3 ～ 平 23.11.9	長井市教育委員会（企画展「耳飾展」）	富岡町前山 A 遺跡出土土師器ほか	20
平 23.10.18 ～ 平 23.11.15	栃木県立博物館（企画展「土偶の世界—縄文人のこころ—」）	広野町上田郷 VI 遺跡出土土偶ほか	21
平 23.9.6 ～ 平 23.11.22	栃木県立なす風土記の丘資料館（企画展「那須と白河—接面の地 東山道、そして関—」）	白河市穴内古墳群出土土具ほか	46
平 23.9.17 ～ 平 23.11.29	山梨県立考古博物館（特別展「縄文土器名宝展～縄文芸術の到達点～」）	磐梯町 法正尻遺跡出土 縄文土器	13
平 23.12.10 ～ 平 24.3.30	福島県立博物館（ポイント展「旧石器時代の斧」）	榎葉町 大谷上ノ原遺跡出土 局部磨製石斧	2
平 24.1.17 ～ 平 24.3.31	福島県立博物館（企画展「小さなもの集まれ」）	会津板下町鬼渡 A 遺跡出土石器ほか	25
平 24.1.20 ～ 平 24.3.6	大安場史跡公園（企画展福島県中通りの前期古墳を考える）	小野町 落合遺跡出土 土師器	1
		合 計	1,448

(2) 模型及びレプリカ

貸出期間	貸 出 先	資 料 名	数量
平 23.4.1 ～ 平 24.3.31	福島県立博物館（常設展示）	梵鐘復元品ほか	10
平 23.6.15 ～ 平 23.6.21	白河市立東北中学校（研究授業のため）	体験学習器財（石包丁）ほか	9
平 23.7.15 ～ 平 24.3.31	磐梯町磐梯山慧日寺資料館（テーマ展示「縄文文化の十字路・法正尻遺跡」）	法正尻遺跡復元地形模型ほか	11
		合 計	30

3. 写真掲載等承認

承認日	申請者（掲載刊行物等）	資 料 名	数量
平 23.5.26	仙台市富沢遺跡保存館（特別企画展「動物の考古学」図録・各種印刷物）	小野町沢目木 B 遺跡出土縄文土器写真ほか	6
平 23.7.13	山梨県立考古博物館（特別展「縄文土器名宝展～縄文芸術の到達点～」図録）	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器写真ほか	20
平 23.11.15	福島県教育会館（『夏休みの友』）	下野街道写真	1
平 23.11.15	福島県教育会館（『夏休みの友』）	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器写真	1
平 23.11.15	福島県教育会館（『夏休みの友』）	常設展示「縄文時代ブース」写真ほか	4
平 23.11.15	光文書院（『社会科資料集 6 年』）	弥生時代の鍛復元品写真	1
平 23.11.19	新泉社（シリーズ遺跡を学ぶ『泉官衙遺跡』）	南相馬市大迫遺跡出土土器写真ほか	2
平 23.10.15	栃木県立博物館（企画展「土偶の世界—縄文人のこころ—」図録・広報誌）	広野町上田郷 VI 遺跡出土土偶写真ほか	21
平 23.11.14	福島市教育委員会（企画展「縄文人の祈りの世界」図録）	三春町柴原 A 遺跡出土土偶写真ほか	2
平 23.10.6	富山県中学校教育研究会（「第 2 学年社会学力調査問題」）	三角緑神獣鍛復元品写真	1
平 23.10.4	共同通信社大阪社会部（連載企画「遺跡からの警告～地震考古学」）	相馬市段ノ原 B 遺跡地割写真ほか	3

承認日	申請者（掲載刊行物等）	資 料 名	数量
平 23.9.28	ウィキペディア（「軍団（古代日本）」「日本の軍事史」の項）	軍団兵士模型写真	1
平 23.9.9	千葉県立房総のむら（企画展「ムラの鍛冶屋の考古学—房総鉄器文化の源流—」図録・展示パネル）	製鉄実験写真	1
平 23.8.31	歴史春秋出版（『わかりやすい会津の歴史』）	会津若松市屋敷遺跡出土土器写真ほか	29
平 23.8.20	白河市内小学校（社会科資料『わたしたちのしらかわ』）	まほろん正面玄関写真ほか	3
平 23.8.11	栃木県立なす風土記の丘資料館（企画展「那須と白河—接圏の地 東山道、そして関—」図録）	白河市筑内古墳群出土馬具写真ほか	3
平 23.8.5	長野県立歴史館（常設展示パネル）	野外展示「奈良時代の倉庫」写真	1
平 23.7.30	長井市古代の丘資料館（企画展「耳飾り展」図録）	富岡町前山A遺跡出土耳栓写真ほか	20
平 23.7.30	白河法人会（『ほうじん白河』）	まほろん外観写真ほか	3
平 23.7.30	磐梯町磐梯山慧日寺資料館（テーマ展「縄文文化の十字路・法正尻遺跡」展示パネル）	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器写真ほか	10
平 23.7.30	ウィツェル（株）（パンフレット「CMF 技術情報サービスの概要」ほか）	天栄村桑名邸遺跡出土縄文土器写真	1
平 24.1.15	福島県立博物館（企画展「小さなもの集まれ」図録・広報資料）	会津坂下町鬼渡A遺跡出土土器写真ほか	25
平 24.1.15	うつくしま奥の細道「花・街・道」キャンペーン推進協議会（同パンフレット）	まほろん外観写真ほか	3
平 24.1.8	明治図書出版（中学生用副教材『国語の学習 光村図書版3年』）	弓を射る白河軍団兵士模型写真	1
平 24.1.8	帝国書院（『社会科 中学生の歴史』デジタル教科書及び拡大版）	三角縁神獣鏡復元品写真	1
平 23.12.25	石川町教育委員会（『石川町史 第一巻』原始・古代・中世・近世）	石川町上悪戸遺跡出土土器写真ほか	14
平 23.12.8	白河市（総合観光パンフレット『しらかわの散歩道』）	まほろん外観写真ほか	5
平 23.11.22	県内研究者（講演会における配付資料）	法正尻遺跡調査写真ほか	53
平 24.1.27	朝日新聞出版（『週刊新マンガ日本史』電子書籍版）	軍団兵士模型写真	2
平 24.2.2	石川町教育委員会（『石川町史 第一巻』原始・古代・中世・近世）	湯川町桜町遺跡「2号周溝基全景」写真	1
平 24.2.14	セットスクエア・ワン（『週刊和時計をつくる』第42号）	弩復元品写真	1
平 24.1.18	郡山市文化・学び振興公社（大安場史跡公園平成23年度企画展『福島県中通りの前期古墳を考える』）	小野町落合遺跡出土土器写真	1
平 24.3.13	明治図書出版（中学生用国語副教材『国語の学習教育出版3年』）	軍団兵士模型写真	1
平 24.3.23	東蒲原郡史編さん委員会（『東蒲原郡史 通史編1』原始・古代・中世・近世）	喜多方市荒屋敷遺跡遠景写真	1
平 24.3.5	県外研究者（論文『考古学研究58-4所収』の挿図に使用）	新地町双子遺跡Ⅱ区縄文土器包含層全景写真ほか	2
平 24.3.12	奈良文化財研究所飛鳥資料館（飛鳥資料館特別展図録『比羅夫がゆく—飛鳥時代の武器・武具・いくさ—』）	軍団兵士模型写真	1
平 24.3.30	東北歴史博物館（『研究紀要13』所収論文挿図に使用）	新地町双子遺跡Ⅱ区縄文土器包含層全景写真ほか	2
		合 計	248

4. 資料閲覧

（1）遺 物

(点)

閲覧日	閲覧者（閲覧目的）	資 料 名	数量
平 23.5.27	仙台市富沢遺跡保存館職員（企画展の事前調査）	小野町沢目木B遺跡出土縄文土器ほか	6
平 23.6.1	山梨県立考古博物館職員（企画展の事前調査）	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器	15
平 23.6.15	栃木県立なす風土記の丘資料館職員（企画展の事前調査）	泉崎村関和久官衙遺跡出土瓦ほか	314
平 23.7.29	県内研究者（調査研究）	郡山市柿内戸遺跡出土土師器ほか	136
平 23.8.26	福島県立博物館職員（企画展の事前調査）	三春町柴原A遺跡出土縄文土器	1
平 23.9.17	福島県立博物館職員（企画展の事前調査）	二本松市塩沢上原A遺跡出土縄文土器ほか	13
平 23.9.19	県内研究者（調査研究）	小野町落合遺跡出土土師器ほか	115
平 23.10.1	福島県立博物館職員（企画展の事前調査）	郡山市北向遺跡出土縄文土器	14
平 23.11.19	県内研究者（調査研究）	喜多方市荒屋敷遺跡出土土師器ほか	440
平 23.12.9	大安場史跡公園職員（企画展の事前調査）	小野町落合遺跡出土土師器	4
平 23.12.23	福島県立博物館職員（企画展の事前調査）	会津坂下町鬼渡A遺跡出土両頭石棒ほか	44
		合 計	1,102

（2）その他

(点)

閲覧日	閲覧者（閲覧目的）	資 料 名	数量
平 23.6.1	山梨県立考古博物館職員（企画展の事前調査）	磐梯町法正尻遺跡遺構写真	1
平 23.6.25	矢巾町歴史民俗資料館職員（革甲製作の参考調査）	弓を射る軍団兵士模型	1
平 24.1.24	飛鳥資料館職員（企画展の事前調査）	弓を射る軍団兵士模型	1
平 24.2.9	飛鳥資料館職員（企画展の事前調査）	弓を射る軍団兵士模型	1
		合 計	4

4 文化財の活用に関する業務

1. 常設展示

(1) 構成

1) プロムナードギャラリー

- ①「象徴展示」(磐梯町法生尻遺跡)
- ②「探してみよう福島の文化財」
- ③「まほろん周辺の文化財」(パネル展示)
- ④「ふくしまの宝物」

2) 常設展示室

- ①「めぐみの森」
- ②「暮らしのうつりかわり」
 - 〈昭和 40 年代〉〈江戸時代〉〈生と死〉
 - 〈鎌倉・室町時代〉〈奈良・平安時代〉
 - 〈古墳時代〉〈弥生時代〉〈縄文時代〉
 - 〈旧石器時代〉
- ③「暮らしをささえた道具たち」
 - サブコーナー 〈まほろんビデオ BOX〉
- ④「遺跡を掘る」
 - サブコーナー 〈話題の遺跡〉
- ⑤「みんなの研究ひろば」
- ⑥「クイズふくしま歴史発見」
- ⑦「のぞいてみよう福島の遺産」

⑧「しらかわ歴史名場面」

⑨映像展示

「ふくしまの文化財ーいのちのかたちー」

(2) 展 示

プロムナードギャラリーや常設展示室の一部を利用して、企画展事業や他の事業等との関連を持たせた内容を主とした展示を数カ月単位で実施した。展示状況は、別表一覧のとおり。

1) ふくしまの宝物(プロムナードギャラリー)

まほろんに所蔵されている出土品の中から、当館職員がよりすぐって2つの遺跡出土品を展示した。

2) 話題の遺跡(常設展示室)

県内の文化財情報を積極的に収集し、関係の自治体や生涯学習施設との連携を図った話題性に富んだ新鮮な展示を行うとともに、企画展の内容と関連したものを展示し、展示室総体が連携するように努めた。

◆小野町西田 H 遺跡

県営こまちダム建設予定地内の縄文時代や奈良・平安時代の集落遺跡である。縄文時代の竪穴住居跡は、緩やかな斜面に住宅団地のように

展示一覧

コーナー		タイトル	開催期間	所有者	備 考
ふくしまの宝物 (プロムナードギャラリー)		福島市弓手原 A 遺跡	平成 23 年 5 月 1 日～ 平成 23 年 11 月 25 日	館 蔵	縄文土器 (単孔壺)
		石川町殿畑遺跡	平成 23 年 11 月 27 日～ 平成 24 年 3 月 31 日	館 蔵	土師器 (異形土器)
話題の遺跡		南相馬市 (旧鹿島町) 宮前遺跡	平成 23 年 5 月 1 日～ 平成 23 年 7 月 16 日	館 蔵	平成 22 年度より継続
		小野町西田 H 遺跡	平成 23 年 7 月 18 日～ 平成 23 年 12 月 28 日	館 蔵	
		小野町鹿島遺跡	平成 23 年 1 月 10 日～ 平成 24 年 3 月 31 日	館 蔵	
みんなの研究ひろば	1	まほろんイベント 「古代の鉄づくり」報告	平成 23 年 5 月 1 日～ 平成 24 年 3 月 31 日	館 蔵	平成 21 年度より継続
		実技講座「古代の鍛冶体験」成果品 (ペーパーナイフ)	平成 23 年 5 月 1 日～ 平成 24 年 3 月 31 日	館及び個人蔵	平成 22 年度より継続
	2	復元研究の成果 (馬具の馬鈴)	平成 23 年 5 月 1 日～ 平成 24 年 3 月 31 日	館 蔵	平成 22 年度より継続
		学芸員実習の成果 (小野町沢目木 B・堂田 A 遺跡)	平成 23 年 9 月 7 日～ 平成 24 年 3 月 31 日	館 蔵	
しらかわ 歴史名場面		白河市小峰城跡	平成 23 年 5 月 1 日～ 平成 23 年 6 月 29 日	白河市教育委員会	平成 22 年度より継続
		塙町上ノ台遺跡	平成 23 年 6 月 30 日～ 平成 23 年 10 月 7 日	塙町教育委員会	
		中島村新田遺跡	平成 23 年 10 月 8 日～ 平成 24 年 1 月 13 日	中島村教育委員会	
		白河市南堀切遺跡	平成 24 年 1 月 21 日～ 平成 24 年 3 月 31 日	白河市教育委員会	

隣接して発見されている。

◆小野町鹿島遺跡

縄文時代・平安時代・鎌倉から室町時代・江戸時代の各時代の遺跡である。青磁片は中国からの輸入、砥石は京都の鳴滝で生産され、県内には出土例の少ない遺物を紹介した。

このほか、南相馬市宮前遺跡の紹介もした。



話題の遺跡「小野町西田H遺跡」

3) みんなの研究広場（常設展示室）

「みんなの研究広場」は、県民の歴史や文化財等に関する研究を積極的に紹介することで、県民と歴史・文化財等が近い存在であることを印象付ける特徴的コーナーであり、児童・生徒、教育関係者の調査研究成果を積極的に展示し、併せて当館が行っている実技講座や復元研究の成果も展示する。

◆実技講座「古代の鍛冶体験」の成果品

古代の遺跡から出土した蔵手刀などの鉄製品をモデルとし、古代のモノづくりを体験する実技講座の成果品を「みんなの研究広場」で展示した。

このほかに、まほろんイベント「古代の鉄づくり」・復元研究の成果「いわき市中田横穴出土馬鈴の復元」・大学生の学芸員実習での成果などを展示した。

4) しらかわ歴史名場面（常設展示室）

「しらかわ歴史名場面」は、来館者に白河地方の文化財に親しんでもらうため、県南地域の市町村や生涯学習施設と連携して、各市町村の発掘調査資料を中心に、話題性や地域性のある資料を積極的に掘り起こし、フレキシブルな展示を企画している。本年度は、4つの遺跡について紹介した。

◆塙町上ノ台遺跡

奈良・平安時代の集落遺跡で、古代白河郡高野郷（現在の棚倉・塙・矢祭町周辺）の中心地と考えられている。

◆中島村新田遺跡

白河市に隣接する中島村新田遺跡は、古墳時代中期の集落遺跡であり、阿武隈川西側では数少ない調査遺跡である。

◆白河市南堀切遺跡

縄文時代中期中葉の集落遺跡で、東北地方の大木式土器と関東地方の阿玉台式土器が出土しており、東北と関東地方の交流があったことを物語っている。

このほか、白河市小峰城跡については22年度より継続して展示した。

（3）展示資料の破損等

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、野外展示の復元建物等に大きな被害が出た。被害状況は前掲（P2）のとおり。

（4）メンテナンス

東日本大震災により発生した被害については、前掲（P2）のとおり修繕を完了した。その他のメンテナンスは以下のとおり行なった。

◆室町時代の館

平成22年度に予定しながら東日本大震災発生により実施できなかった修繕工事を福島県が行った。櫓の柱脚部分を固化し、腐食防止の薬剤を塗布、柱を埋設する部分をコンクリートで固めた。

◆常設展示室の展示ケースのガラス清掃やホコリの除去を行った。

2. 企画展示

東日本大震災、さらにその後の余震が続いたため当初の計画を変更して、収蔵資料を活用した展示を主として行った。

（1）まほろん収蔵資料展

「新編陸奥国風土記 巻之九 安達郡」

会 期：平成23年5月1日（日）～7月3日（日）

（開催日数 55日間）

観覧者数：4,256名

1) 趣旨

まほろんでは、収蔵されている考古資料など

を通して、県内各地域の歴史や当時の人々の営みを復元し、新たな風土記の世界を『新編陸奥国風土記』として紹介している。

巻之九となる今回は、「安達郡」に相当する二本松市と本宮市を対象地域とした。旧石器時代から江戸時代の遺跡で見つかった数々の出土資料から、当時の人々の生活を紹介した。

2) 内容

旧石器時代から江戸時代までの時系列に沿って3つのコーナーに分け、当館収蔵の考古資料や写真パネルをもとに展示構成を行った。

①安達太良の麓に暮らす人々

昭和44～48年度に東北自動車道の建設に伴い発掘調査が行われた二本松市塩沢上原A・B遺跡、同市田地ヶ岡遺跡を展示し、全国的に珍しい「複式炉」を紹介した。

②阿武隈川の岸边に暮らした人々

安達郡内を北流する阿武隈川の岸边の本宮市高木・北ノ脇・山王川原遺跡の縄文時代・古墳～平安時代の集落遺跡から出土品を紹介した。

③岸边の祭り

阿武隈川に面した本宮市高木遺跡の出土品を通して、古墳時代に行われた様々な岸边の祭りを紹介した。

3) 総括

展示開催予定日の前日（3月11日）に東日本大震災が発生したため、展示の開始を5月1日に延期した。

担当職員による展示解説会を定期的に行い、来館者に対する展示に対する理解を深めた。また、随時展示解説会を行い、来館者からは好評であった。



「安達郡」展示解説会

（2）まほろん収蔵資料展

「発掘された浜通りの遺跡」（前期・後期）

前期の会期：平成23年7月16日（土）～9月25日（日）（開催日数：67日間）

前期の観覧者数：6,672名

後期の会期：平成23年10月1日（土）～11月20日（日）（開催日数：44日間）

後期の観覧者数：4,326名

1) 趣旨

福島県の浜通り地方は、3月11日に発生した東日本大震災によって甚大な被害を被った。特に津波や原発の被害によって多数の方々が住み慣れた土地を離れ、県内外の避難所や仮設住宅などで帰郷を待ち望んでいる。

まほろんでは、常磐自動車道・相馬開発・原町火力発電所・国道113号建設事業に伴う発掘調査で出土した、この地方に特徴的な資料を保管している。このため、前・後期の2回に分け、この地方の歴史と特質を明らかにし、併せて被災した地域を応援することとした。

前期は、「原始・古代の村々」、後期はこの地方に特徴的な製鉄・製塩などの「産業」に焦点を当てて、この地方の歴史を紹介した。

2) 展示の構成と内容

【前期】

旧石器時代から江戸時代までの時系列に沿って5つのコーナーに分け、当館収蔵の考古資料や写真パネルを基に展示を行った。

①浜通りの旧石器時代

昭和50年代から福島県教育委員会が行った発掘調査により発見された新地町三貫地遺跡、南相馬市萩原遺跡、檜葉町大谷上ノ原遺跡の出土品を紹介した。

②浜通りの縄文時代

広野町上田郷VI遺跡、川内村の縄文遺跡、富岡町前山A遺跡、檜葉町馬場前遺跡、飯舘村の真野ダム水没地内の縄文遺跡から集落遺跡の特質と出土品を紹介した。

③浜通りの弥生時代

檜葉町美シ森B遺跡といわき市白岩堀ノ内遺跡の土器・石器を紹介した。

④浜通りの古墳時代

相馬市山中B遺跡の土師器・土玉・舟形土製品を通して「まつり」の痕跡及び同市大森A

遺跡の水田跡を紹介した。

⑤浜通りの古代

古代の浜通り地方は陸奥国に属し、北から宇多・行方・標葉・磐城・菊田の六郡に区画されていた。

古代の村では楯葉町馬場前・鍛冶屋遺跡や、いわき市大猿田遺跡の木製品などを紹介した。



「発掘された浜通りの遺跡」ポスター

【後期】

浜通り地方は、奈良・平安時代から江戸時代にかけて鉄生産（現代のコンビナート）や窯業・塩業などが行われていた。産業に焦点をあて、浜通り地方の遺跡を紹介した。

①浜通りの製鉄

古代の宇多・行方郡成立後、盛んに行われた当時の先端技術である製鉄の様子を、新地町向田A遺跡、相馬市猪倉A・B遺跡や南相馬市割田H遺跡や大船迫A遺跡などの遺構写真・出土品を通して紹介した。

②浜通りの窯業

宇多郡成立後、盛んに行われた当時の先端技術である窯業の様子を、古墳時代の相馬市善光寺遺跡と江戸時代の大堀相馬焼の浪江町中平遺跡などの遺構写真・出土品を通して紹介した。

③浜通りの製塩業

相馬市松川浦の北側には、かつて新沼浦という浦があった。この浦では近世から近代にかけて、多くの製塩業が営まれていた。新地町唐崎遺跡、相馬市鷲塚遺跡などの遺構写真・出土品を通して紹介した。

3) 関連文化財講演会

平成23年9月17日（土）に、馬目順一氏（いわき明星大学非常勤講師）による「浜通りの原始・古代—いわきを中心とした貝塚文化—」を開催した。

4) 総括

本企画展期間中の来館者総数は、10,998人、開催期間中の一日平均の来館者は99人である。展示期間中は随時展示解説会を行い、来館者への理解を深めるようにした。

また、津波や原発の被害によって避難された方々が多数来館され、郷土の歴史と特質を再確認されていた。

（3）まほろん収蔵資料展

「器（うつわ）の変遷」

会期：平成23年11月26日（土）～平成24年2月19日（日）（開催日数：68日間）

観覧者数：4,165名

1) 趣旨

器（うつわ）には、土を材料につくられた土器、石を材料にした石器、木を材料にした木器、鉄を材料とした鉄器などがある。

今回の展示では、土器を取り上げ、形・文様や呼び名を替えながら縄文時代から現代までの日常的に使用する器（うつわ）の変遷を、収蔵資料を用いて紹介した。



「器の変遷」

2) 内容

展示の構成を①土器の移り変わりと②用途ごとの移り変わりの2つに分け、写真と解説パネルを用いて来館者に分かりやすい展示を心がけた。

①土器の移り変わり

原始の縄文・弥生土器、古代の土師器・須恵器、中近世の陶磁器の変遷を分かりやすく展示した。

②用途ごとの移り変わり

用途ごとに、煮炊き（鍋・釜）・溜める（瓶・壺）・盛る（杯・皿・台付き）・注ぐ（注口・片

口）・特殊な器（香炉・異形）を展示した。

3) 総括

器（うつわ）の変遷をまほろん収蔵資料を活用し、来館者にわかり展示することに心がけた。

また、展示解説会を随時行い、来館者からは展示の内容が良く理解できたと好評であった。

（4）指定文化財展

「ふくしまの重要文化財Ⅸ 三島町荒屋敷遺跡」

会 期：平成24年3月10日(土)～3月31日

(土)（開催日数：19日間）

観覧者数：（平成23年度）959名

指定文化財展「ふくしまの重要文化財Ⅸ 三島町荒屋敷遺跡」展示品目録

No	資料名	器 種	時 期	備考
1	繊維製品	籠	縄文時代晩期	○
2	繊維製品	籠	縄文時代晩期	○
3	縄文土器	底部（網代痕）	縄文時代晩期	
4	工芸品	籠	現 代	※1
5	工芸品	笊	現 代	※1
6	繊維製品	縄	縄文時代晩期	○
7	繊維製品	縄	縄文時代晩期	○
8	繊維製品	縄	縄文時代晩期	○
9	繊維製品	縄類	縄文時代晩期	
10	繊維製品	縄類	縄文時代晩期	
11	繊維製品	縄類	縄文時代晩期	○
12	繊維製品	縄類	縄文時代晩期	○
13	繊維製品	縄類	縄文時代晩期	○
14	繊維製品	縄類	縄文時代晩期	○
15	繊維製品	縄類	縄文時代晩期	○
16	木製品	弓	縄文時代晩期	○
17	木製品	矢	復元品	※2
18	木製品	弓	復元品	※2
19	木製品	石斧の柄（未製品）	縄文時代晩期	○
20	木製品	石斧の柄	縄文時代晩期	○
21	木製品	石斧の柄	復元品	※2
22	木製品	コップ状木製品（未製品）	縄文時代晩期	○
23	木製品	コップ状木製品	縄文時代晩期	○
24	木製品	コップ状木製品	復元品	
25	木製品	浅鉢（未製品）	縄文時代晩期	○
26	木製品	浅鉢	縄文時代晩期	○
27	縄文土器	大型壺	縄文時代晩期終末	○
28	縄文土器	浅鉢	縄文時代晩期終末	○
29	縄文土器	鉢	縄文時代晩期終末	○
30	縄文土器	鉢	縄文時代晩期終末	○
31	縄文土器	深鉢	縄文時代晩期終末	○
32	縄文土器	壺	縄文時代晩期終末	○
33	縄文土器	鉢	縄文時代晩期終末	○
34	縄文土器	鉢	縄文時代晩期終末	○
35	弥生土器	鉢	弥生時代中期	○
36	弥生土器	壺	弥生時代前期	○
37	縄文土器	皮袋形土器	縄文時代晩期終末	○
38	土製品	人面付土版	縄文時代晩期	○
39	土製品	人面付土版	縄文時代晩期	○
40	土製品	土偶	縄文時代晩期	○
41	土製品	土偶	縄文時代晩期	○
42	石製品	石冠	縄文時代晩期	○
43	石製品	石冠	縄文時代晩期	○
44	石製品	石棒	縄文時代晩期	

No	資料名	器 種	時 期	備考
45	石製品	独鈷石	縄文時代晩期	○
46	土製品	耳飾り	縄文時代晩期	
47	石製品	石製円板	縄文時代晩期	○
48	石製品	石製円板	縄文時代晩期	○
49	土製品	耳飾り	縄文時代晩期	○
50	土製品	耳飾り	縄文時代晩期	
51	土製品	耳飾り	縄文時代晩期	○
52	土製品	耳飾り	縄文時代晩期	○
53	土製品	耳飾り	縄文時代晩期	○
54	石製品	玉類	縄文時代晩期	○
55	石製品	玉類	縄文時代晩期	○
56	石製品	玉類	縄文時代晩期	○
57	石製品	玉類	縄文時代晩期	○
58	石製品	玉類	縄文時代晩期	○
59	石製品	玉類	縄文時代晩期	○
60	石製品	玉類	縄文時代晩期	○
61	石製品	玉類	縄文時代晩期	○
62	石製品	玉類	縄文時代晩期	○
63	石製品	線刻礫	縄文時代晩期	○
64	漆製品	ヘアピン	縄文時代晩期	
65	漆製品	ヘアピン	縄文時代晩期	○
66	漆製品	結び糸玉	縄文時代晩期	○
67	漆製品	結び糸玉	縄文時代晩期	○
68	漆製品	櫛	縄文時代晩期	○
69	漆製品	櫛	縄文時代晩期	○
70	漆製品	櫛	縄文時代晩期	○
71	漆製品	櫛	復元品	
72	漆製品	櫛	復元品	
73	繊維製品	編布	縄文時代晩期	○
74	繊維製品	編布	縄文時代晩期	○
75	石製品	ベンガラ付着石皿	縄文時代晩期	○
76	縄文土器	壺（漆容器）	縄文時代晩期終末	○
77	縄文土器	壺（漆容器）	縄文時代晩期終末	○
78	縄文土器	浅鉢（パレット）	縄文時代晩期終末	○
79	縄文土器	鉢	縄文時代晩期終末	○
80	縄文土器	鉢	縄文時代晩期終末	○
81	縄文土器	壺	縄文時代晩期終末	○
82	縄文土器	脚付鉢	縄文時代晩期終末	○
83	縄文土器	壺	縄文時代晩期終末	※2
84	縄文土器	鉢	縄文時代晩期終末	※2
85	縄文土器	鉢	縄文時代晩期終末	※2
86	漆 器	杯	江戸時代	※2
87	漆 器	椀	江戸時代	※2
88	漆 器	椀	鎌倉～平安時代	※2

備考：○は福島県指定の重要文化財。

※1は三島町生活工芸館所蔵、※2は福島県文化財センター白河館（まほろん）収蔵、それ以外は、三島町教育委員会所蔵。

1) 趣旨

福島県内の重要文化財を紹介する「ふくしまの重要文化財」シリーズの第9弾として、大沼郡三島町教育委員会が昭和60～63年に行った国道252号線の改良工事に伴う発掘調査によって出土した低湿地遺跡である荒屋敷遺跡の展示会を実施した。出土資料のうち、「県指定重要文化財（考古資料）」に指定されている出土品を中心に持ち上げ、漆を利用した道具や各種の木製品・繊維製品等から現代に通じる高度な「縄文の匠たちの技」を紹介した。

2) 展示の構成と内容

展示は、出土した道具の材料の違いから「木や繊維の道具」、「土や石で作られた道具」、「漆を用いた道具」の3つのコーナーに分けた。

①「木や繊維の道具」では、当時の人々が木の特性をよく理解していたことや、出土した籠が現代と共通した編み方であったとわかる写真やパネルを展示した。

②「土や石で作られた道具」では、当時の広い交流範囲が伺える土器、祭りや飾り等に使用されたと考えられる様々な道具を展示した。

③「漆を用いた道具」では、櫛や糸玉の漆製品以外に、漆をこした布や赤漆を作る顔料を磨りつぶした石皿、漆を入れた縄文土器などの漆工にかかわる道具を展示した。



「三島町荒屋敷遺跡」 展示解説会

3) 総括

今回の展示で、来館者から「縄文時代から漆技術があったことに驚いた」「縄文時代の籠の編み方が現代のものと全く同じだ」「遺跡が湿地だったから、腐りやすい道具が残っていたのか」「縄文時代から受け継がれてきた技術を後世にどのようにして継承したらよいだろうか」

といった感想が寄せられ、展示の目的はおおむね達成されたと思われる。

(5) まほろん移動展

本年度は、まほろん収蔵資料展を二本松市歴史資料館及び県立図書館で開催した。

1) 「新編陸奥国風土記 巻之九 安達郡」移動展

会 期：平成23年7月12日（火）～8月21日（日）

会 場：二本松市歴史資料館

観覧者数：353名

共 催：二本松市教育委員会

内 容：二本松市を中心に、旧石器時代から江戸時代の遺跡で見つかった数々の出土資料から、当時の人々の生活を紹介した。

2) 福島県立図書館との連携事業

①「まほろん開館10周年記念パネル展」

会 期：平成23年7月15日（金）～8月31日（水）

会 場：福島県立図書館展示コーナー

内 容：開館10周年を記念し、県民への感謝を表するとともに、当館で行っている体験活動や、展示・施設を写真パネルで紹介した。

②福島県文化財センター白河館「まほろん」収蔵資料展～原始・古代の土器・石器～

会 期：平成24年1月6日（金）～2月29日（水）

会 場：福島県立図書館展示コーナー

内 容：まほろんの収蔵資料から、福島市周辺の遺跡から出土した原始・古代の土器や石器を展示した。

③講座「まほろん」収蔵資料から見た“ふくしま”の原始・古代

日 時：平成24年1月28日（土）

14:00～16:00

場 所：福島県立図書館第二研修室

講 師：当館芳賀英一学芸課長

主 催：福島県立図書館

3. 講演会等

(1) 館長講演会

平成23年度は開館10周年であったが、東日本大震災の影響により記念事業を実施できなかった。そのため10周年に当たる7月に、4月に当館の新館長に就任した菊池館長の初めての館長講演会を、記念事業として実施した。

また、館長講演会を「歴史は知恵の森」をテーマとして年度後半に3回開催した。

【開館10周年記念】

平成23年7月17日(日)「まほろんの10周年によせて」(参加者数:30名)

【歴史は知恵の森】

・平成23年10月22日(土)第1回「東日本大震災に思う」(参加者数:38名)

・平成23年12月17日(土)第2回「藤本前館長の思い出」(参加者数:30名)

・平成24年2月18日(土)第3回「日本における世界遺産の現状」(参加者数:53名)

(2) 文化財講演会

東日本大震災直後ということで「災害と考古学」講座を特別に企画するとともに、企画展などに関連させ、以下の講演会を実施した。

1)「複式炉と堅果類から見た縄文時代」をテーマとして、当館運営協議会委員の日下部善己氏が講演を行った。

・実施日:平成23年6月25日(土)

・参加者:15名

2)「浜通りの原始・古代 いわきを中心とした貝塚文化」をテーマとして、いわき明星大学非常勤講師の馬目順一氏が講演を行った。

・実施日:平成23年9月17日(土)

・参加者:29名

3)「災害と考古学Ⅰ 遺跡が語る地震の歴史」をテーマとして、独立行政法人産業技術総合研究所招聘研究員の寒川旭氏が講演を行った。

・実施日:平成23年10月1日(土)

・参加者:70名

4)「災害と考古学Ⅱ 災害リスクマネジメントのための考古学」をテーマとして、立命館大学教授・歴史都市災害研究センター研究推進委員の高橋学氏が講演を行った。

・実施日:平成23年11月26日(土)

・参加者:30名

5)「農耕社会の成立」をテーマとして、明治大学文学部教授の石川日出志氏が講演を行った。

・実施日:平成24年1月21日(土)

・参加者:31名

6)「亀ヶ岡文化の魅力」をテーマとして、前弘前大学人文学部教授で当館運営協議会長の藤沼邦彦氏が講演を行った。

・実施日:平成24年3月24日(土)

・参加者:27名

(3) 文化財に関する上映会

文化財に関する上映会は、文化財記録ビデオの上映及び当館職員の説明を実施した。

・内 容:「竹縄のさと」「越前和紙」

・実施日:平成24年1月29日(日)

・参加者:10名

4. 体験学習

平成23年度に実施した体験学習メニューとその実績は、以下のとおりである。

(1) 常時体験型メニュー

1) 体験活動室メニュー

講演会等実施一覧

名 称	講 師 名	実施日	受講者数	場所
館長講演会第1回「東日本大震災に思う」	菊池徹夫館長	10月22日(土)	38名	講堂
館長講演会第2回「藤本前館長の思い出」	菊池徹夫館長	12月17日(土)	30名	講堂
館長講演会第3回「日本における世界遺産の現状」	菊池徹夫館長	2月18日(土)	53名	講堂
館長講演会開館10周年記念「まほろんの10周年によせて」	菊池徹夫館長	7月17日(日)	30名	講堂
文化財講演会「複式炉と堅果類から見た縄文時代」	日下部善己(当館運営協議会委員)	6月25日(土)	15名	講堂
文化財講演会「浜通りの原始・古代 いわきを中心とした貝塚文化」	馬目順一(いわき明星大学非常勤講師)	9月17日(土)	29名	講堂
文化財講演会「災害と考古学Ⅰ 遺跡が語る地震の歴史」	寒川旭(独立行政法人産業技術総合研究所招聘研究員)	10月1日(土)	70名	講堂
文化財講演会「災害と考古学Ⅱ 災害とリスクマネジメントのための考古学」	高橋学(立命館大学教授・歴史都市災害研究センター研究推進委員)	11月26日(土)	30名	講堂
文化財講演会「農耕社会の成立」	石川日出志(明治大学文学部教授)	1月21日(土)	31名	講堂
文化財講演会「亀ヶ岡文化の魅力」	藤沼邦彦(前弘前大学人文学部教授)	3月24日(土)	27名	講堂
文化財ビデオ上映会「竹縄のさと」「越前和紙」	大山孝正(当館主任学芸員)	1月29日(日)	10名	講堂



ミニチュア土器をつくろう

体験活動室において実施する、一般来館者を対象とした体験学習メニューである。今年度は、昨年度までの実施状況を踏まえて、季節や当館の行事予定を考慮しつつ年間計画を作成し、通年体験できる「勾玉・管玉づくり」や「火おこしに挑戦しよう」に、2週間で入れ替わる17種類の期間限定メニューを組み合わせ実施した。

今年度の体験者数は、東日本大震災のため、5月再開となったが、昨年より90人ほどの減少にとどまった。これは、今年度から新たに「組みひもづくり」と「ミニチュア土器づくり」などを加えたことで、来館者の興味を引いたものと思われる。

体験活動室メニューの実施状況

内 容	参加者数	内 容	参加者数
勾玉づくり	1,564名	ミニチュア埴輪	54名
管玉づくり	59名	七夕飾りをつくってみよう	29名
火おこしに挑戦してみよう	2,478名	落ち葉でお面をつくろう	70名
ガラス玉をつくろう	207名	昔の遊び	148名
勾袋をつくろう	23名	つるし雛をつくってみよう	18名
時代衣装を着てみよう	461名	琥珀勾玉づくり	6名
ミニチュア土器づくり	28名	拓本に挑戦しよう	23名
組みひもをつくろう	137名	ミニチュア土偶	44名
アンギン編みに挑戦しよう	10名		

2) 臨時の一般来館者対応の体験メニュー

ゴールデンウィークや小中学校の夏休み期間、まほろんイベントの実施日、特別展示期間において、体験活動室メニューに加えて、一般来館者向けの体験メニューを実施した。

臨時の一般来館者対応体験メニューの実施状況

内 容	参加者数	内 容	参加者数
弓矢・やり投げ	1,327名	カルメ焼き	117名
土器さわり	647名	缶バッジ	141名
紙かぶと	105名	土器さわり	172名
昔の遊び	324名	木こり	113名

3) 団体来館者対応の体験メニュー

事前予約の団体来館者に対し、勾玉づくり、火おこし、土器さわりなど8メニューを実施した。

(2) 募集型体験メニュー

1) 実技講座

昔の様々な“モノづくり”を体験することで、文化財に対する理解を深めることを目的として実施した。

平成23年度は、東日本大震災のため、例年より1カ月遅れて6月から開始、11講座16回を実施した。

なお実技講座の名称、実施日、参加者数は別表のとおりである。

各講座の定数は10～16名で、家族を対象としたものでは10組となっている。「古銭づくり」「縄文土器づくり上級編」などは参加者が定員を上回った。

実技講座実施状況

	講座名	実施日	参加者数
1	抹茶茶わんをつくろう①	6月11日	6名
2	抹茶茶わんをつくろう②	6月12日	6名
3	カラムシから布をつくろう①	7月2日	7名
4	カラムシから布をつくろう②	7月23日	5名
5	古代の染色にちょうせん	8月6日	10名
6	古代の印章をつくろう	8月28日	12名
7	カラムシから布をつくろう③	9月3日	5名
8	鹿の角で釣り針をつくろう①	9月23日	19名
9	鹿の角で釣り針をつくろう②	9月25日	25名
10	ひょうたんから容器をつくろう	10月15日	17名
11	縄文クッキーをつくろう	10月22日	14名
12	家族で凧をつくろう	12月17日	6名
13	古銭をつくろう	1月21日	24名
14	縄文土器づくり上級編 ①形づくり	2月4日	15名
15	縄文土器づくり上級編 ②文様付け	2月5日	14名
16	ガラスと組紐のアクセサリーをつくろう	2月25日	15名

2) まほろんイベント

当館の業務や文化財に関心を持ってもらうことで、新たな地域・年齢層を開拓し、さらなる来館者増を目指すために実施した。

①まほろん夏まつり

古代3種競技（火おこし、弓矢、槍投げ）、

すり染め、かき氷づくりなどを実施した。

②まほろんを描こう

まほろんの様々な施設や展示物を題材として、参加者に絵画を描いてもらった。作品は来館者の投票により優秀作品を決定し、表彰した。

③まほろん秋まつり

縄文の木こり、落ち葉細工、オリジナル缶バッジ、昔の遊びなどを実施した。なお、「福島県立図書館の移動図書館あづま号がやって来る！」も実施された。



縄文の木こりに挑戦しよう

④餅つき大会

県南地区の餅つき唄にあわせて千本杵による餅つき体験を行った。体験者には試食用の餅を振る舞った。また、子供映画会や昭和の遊びなども行った。

なお、当日はアクアマリンと連携して「アクアマリンから移動水族館がやってくる！」も実施した。

⑤第8回双六大会

盤双六を用いて、トーナメント方式の大会を実施した。



第8回 双六大会

⑥まほろん冬まつり

火おこしタイムトライアル、昔の遊び、カル

メ焼き体験、紙かぶとづくりなどを実施した。

併せて、「福島県立図書館の移動図書館あづま号がやって来る！」も実施した。



まほろん冬まつり「県立図書館おはなし会」

まほろんイベント実施状況

	内 容	実施日	参加者数
1	まほろん夏まつり	7月31日	319名
2	まほろんを描こう	9月17日～19日	42名
3	まほろん秋まつり	11月6日	275名
4	餅つき大会	12月4日	553名
5	第8回 双六大会	1月14日	11名
6	まほろん冬まつり	2月19日	472名
7	古代遊戯大会	3月10日	11名

3) まほろん森の塾

塾生（小学5・6年生、中学生から募集）が、年間を通じて昔の暮らし・技術について体験することで、自らが生きる力をわかりやすく、親しみやすく身につけることを目的として実施した。平成23年度は8名が登録し、「古代の生活を体験」をテーマに様々な体験をした。

まほろん森の塾実施状況

	内 容	実施日	参加者数
1	結団式、火おこし・弓矢・やり投げ	7月17日	5名
2	釣り針づくり	9月23日	7名
3	縄文クッキーづくり・双六	10月22日	6名
4	縄文なべ・燻製・蘇づくり	11月19日	6名
5	解団式、凧づくり	12月17日	7名



まほろん森の塾

(3) 館外体験学習事業

当事業は、県内の学校や公民館などの生涯学習施設に出向き、施設の教職員と協力して授業や体験学習を行うものである。

本事業の各プログラムの概要と平成23年度の成果については、次のとおり。

1) おでかけまほろん

小中学校を対象としたプログラムで、平成23年度は別掲の39校で実施した。

東日本大震災と原発事故の影響で県内の小学校が校外での活動が制限される中、できるだけ多くの学校におでかけして児童たちに文化財を

「おでかけまほろん」実施状況

No.	団 体 名	学年・科目	内 容	実施日	人数
1	いわき市立田人第一小学校	5・6年、総合	土器さわり・火おこし・弓矢体験	5月12日(木)	13名
2	いわき市立田人第二小学校	全学年、総合	土器さわり・火おこし・弓矢体験	5月12日(木)	6名
3	いわき市立石住小学校	6年、社会科	土器さわり・火おこし・弓矢体験	5月12日(木)	1名
4	浅川町立山白石小学校	5・6年、社会科	勾玉づくり	5月13日(金)	11名
5	郡山市立行健第二小学校	6年、社会科	火おこし・弓矢体験	5月18日(水)	85名
6	福島市立中野小学校	5・6年、社会科	土器さわり・火おこし・弓矢体験	5月19日(木)	8名
7	福島市立茂庭小学校	5・6年、社会科	土器さわり・火おこし・弓矢体験	5月19日(木)	5名
8	福島市立土湯小学校	全学年、総合	火おこし体験	5月19日(木)	6名
9	郡山市立栃山神小学校	6年、社会科	勾玉づくり・火おこし体験	5月24日(火)	6名
10	福島市立蓬萊東小学校	6年、社会科	土器さわり・火おこし体験	5月27日(金)	74名
11	田村市立上大越小学校	6年、社会科	土器さわり・火おこし・弓矢体験	5月31日(火)	42名
12	本宮市立糠沢小学校	6年、社会科	勾玉づくり・火おこし・弓矢体験	6月2日(木)	39名
13	鏡石町立鏡石第二小学校	4～6年、社会科	勾玉づくり・火おこし・弓矢体験	6月7日(火)	94名
14	郡山市立小山田小学校	6年、社会科	火おこし体験	6月9日(木)	112名
15	塙町立高城小学校	6年、社会科	勾玉づくり・土器さわり・弓矢体験	6月14日(火)	94名
16	福島県立平養護学校	2・6年、社会科	ミニチュア土器体験	6月16日(木)	7名
17	田村市立古道小学校	6年、社会科	土器さわり体験	6月22日(水)	14名
18	田村市立岩井沢小学校	6年、社会科	土器さわり体験	6月22日(水)	7名
19	伊達市立堰本小学校	6年、社会科	土器さわり・火おこし・弓矢体験	6月24日(金)	43名
20	南会津町立館岩小学校	6年、社会科	土器さわり・火おこし・弓矢体験	6月29日(水)	26名
21	下郷町立楢原小学校	6年、社会科	勾玉づくり・火おこし体験	7月6日(水)	20名
22	福島県立須賀川養護学校郡山分校	9～15歳、社会科	勾玉づくり・土器さわり体験	7月8日(金)	9名
23	伊達市立小国小学校	全校、社会科	土器さわり・火おこし・弓矢体験	8月31日(水)	57名
24	田村市立船引南小学校	6年、社会科	土器さわり・弓矢体験	9月6日(火)	28名
25	郡山市立喜久田小学校	6年、社会科	土器さわり・火おこし体験	9月21日(水)	58名
26	新地町立福田小学校	6年、社会科	土器さわり・弓矢体験	9月29日(木)	22名
27	南相馬市立大甕小学校	6年、社会科	土器さわり・火おこし・弓矢体験	9月30日(金)	15名
28	南相馬市立矢沢小学校	6年、社会科	土器さわり・火おこし・弓矢体験	9月30日(金)	12名
29	南相馬市立高平小学校	6年、社会科	土器さわり・火おこし・弓矢体験	9月30日(金)	15名
30	南相馬市立太田小学校	6年、社会科	土器さわり・火おこし・弓矢体験	9月30日(金)	8名
31	南相馬市立原町第二小学校	6年、社会科	土器さわり・火おこし・弓矢体験	9月30日(金)	22名
32	南相馬市立福浦小学校	6年、社会科	土器さわり・火おこし・弓矢体験	9月30日(金)	7名
33	平田村立蓬田小学校	6年、社会科	土器さわり・火おこし・弓矢体験	10月6日(木)	29名
34	三春町立中妻小学校	6年、社会科	火おこし・弓矢体験	10月14日(金)	31名
35	伊達市立川俣南小学校	6年、社会科	勾玉づくり・弓矢体験	11月9日(水)	31名
36	いわき市立高野小学校	6年、社会科	土器さわり・火おこし体験	11月25日(金)	14名
37	田村市立関本小学校	6年、社会科	土器さわり・弓矢・時代衣装体験	12月2日(金)	10名
38	いわき市立好間第四小学校	5・6年、社会科	土器さわり・火おこし・弓矢体験	12月8日(木)	16名
39	平田村立西山小学校	5・6年、社会科	勾玉づくり・火おこし体験	2月10日(金)	7名

出前講座

No.	団 体 名	学年・年齢	内 容	実施日	人数
1	鮫川村公民館	6～14歳	勾玉づくり・火おこし・弓矢体験	6月11日(土)	24名
2	会津坂下中央公民館	3年生	勾玉づくり体験	9月4日(日)	128名
3	本宮市白沢公民館	11～12歳	勾玉づくり・土器さわり・火おこし・弓矢体験	9月11日(日)	17名
4	喜多方市中央公民館	小2～6年生	勾玉づくり・土器さわり体験	10月15日(土)	6名
5	金山町金山中央公民館	60歳以上	勾玉づくり体験	10月28日(金)	19名

まるとまほろん

No.	団 体 名	学年・年齢	内 容	実施日	人数
1	白河市表郷総合運動公園	小学生・一般	土器さわり	9月25日(日)	207名
2	大玉村あだたらふるさとホール	小学生・一般	土器さわり・火おこし体験	10月29日(土)	178名

通して元気を与えようと、前年度より 12 校多く実施し、対象者は開館以来初めて 1,000 人を超した。

2) まほろん出前講座

公民館などの生涯学習施設における「子供クラブ」などを対象とした体験学習プログラムである。平成 23 年度は、本宮市・喜多方市・会津坂下町・金山町・鮫川村の 5 カ所で実施した。

3) まるごとまほろん

地域住民を対象として、その地域で発掘された考古資料の展示や体験学習などを行うプログラム。平成 23 年度は、大玉村など 2 カ所で実施した。

4) ネットでまほろん

遠隔地の学校や障がいを持っているため来館での活動が困難な学校を対象としたプログラムで、当館と会場をインターネット回線によるテレビ電話で結び、授業を行うものであるが、今年度は申し込みがなかったため実施できなかった。

5 文化財に関する情報発信

1. ホームページによる情報発信

4 月からのアクセス数の推移を下表に示した。年間総アクセス数は 40,235 件で、前年度より 6,315 件（13.6%）減少したが、これは東日本大震災の影響によるものと考えられる。

なお、平成 13 年 7 月 14 日のホームページ開設以来の累計アクセス数は、年度末に 45 万件を超えた。

ホームページのアクセス数一覧

	月間アクセス数	累計アクセス数
4 月	3,508	414,998
5 月	3,997	418,995
6 月	3,707	422,702
7 月	3,553	426,255
8 月	3,459	429,714
9 月	3,102	432,816
10 月	3,331	436,147
11 月	3,325	439,472
12 月	2,879	442,351
1 月	3,057	445,408
2 月	3,113	448,521
3 月	3,204	451,725
合計	40,235	

5 月には、トップページを開設以来初めて大幅に更新し、より利便性向上に努めた。

また、平成 17 年 6 月 9 日以降、毎日のごとを発信し続けてきた「その日その日」コーナーは、東日本大震災当日に途絶えてしまったが、5 月 1 日の再開館とともに、また発信を開始した。

2. データベースによる情報提供

(1) アクセス数の推移

平成 23 年度のアクセス数を下表に示した。データベースの年間アクセス数は 281,889 件で、前年度より約 14 万件（34.1%）減少したが、これも東日本大震災の影響と考えられる。

その内訳を見ると、遺跡データベースと遺物データベースがそれぞれ 8 万件、13 万件を超えており、特にアクセスの頻度が高い。

月別のアクセス件数を見ると、6・8～10・1・2 月で 25,000 件を超えており、年間を通じて安定したアクセスがあった。

データベースのアクセス数一覧

	総アクセス数	各アクセス数			
		遺跡	遺物	写真	文献
4 月	12,758	3,075	5,885	1,148	2,650
5 月	16,887	3,788	8,679	1,591	2,829
6 月	32,347	4,051	22,786	2,653	2,857
7 月	18,019	4,022	9,287	1,829	2,881
8 月	35,798	12,445	14,660	5,469	3,224
9 月	27,255	10,031	9,034	4,999	3,191
10 月	29,429	11,822	11,406	2,994	3,207
11 月	16,400	6,447	6,545	1,769	1,639
12 月	21,630	7,929	10,752	1,186	1,763
1 月	26,003	6,491	16,749	1,364	1,399
2 月	27,137	13,338	9,285	2,178	2,336
3 月	18,226	4,854	10,339	1,183	1,850
合計	281,889	88,293	135,407	28,363	29,826

(2) データの入力

平成 22 年度に遺跡調査部の文化財センター整備担当で作成されたデータ、及び、当館で作成した「文献データベース」、当館で撮影した

データ入力一覧

種類	入力数	削除数	累計
遺跡（基本データ）	30	1	13,820
遺跡（調査台帳）	283		4,184
遺物	14,548		247,415
遺物写真	6,386		18,822
写真	5,898		54,411
文献	1,333		17,000
合 計	28,478	1	355,652

遺物写真の入力を行った。新規入力数（テキスト）を別表に示したが、合計入力数は 28,478 件となっている。

なお、データの見直しを進めたところ、遺跡（基本データ）で 1 件、データの重複がみつかったため削除した。

3. まほろん通信の発行

平成 23 年度は東日本大震災の影響により、通年より 1 回少ない年 3 回の発行となった。発行日は、6 月 20 日、10 月 1 日、1 月 15 日で、各 4,000 部を発行した。概要は、以下のとおりとなっている。

（1）まほろん通信 vol.40（6 月 20 日発行）

- ・館長就任ごあいさつ
- ・常設展示
- ・野外展示
- ・一般収蔵庫
- ・団体利用の申し込み
- ・平成22年度の入館者数
- ・まほろんからのお知らせ（まほろんのホームページが新しくなりました）
- ・今年度の行事予定

（2）まほろん通信 vol.41（10 月 1 日発行）

- ・「まほろん夏まつり」の様子
- ・「開館10周年記念館長講演会」の様子と今後の館長講演会の予定
- ・体験学習（実技講座「古代の染色にちょうせん」・実技講座「古代の印章をつくろう」）
- ・企画展示案内（まほろん収蔵資料展「発掘された浜通りの遺跡 古代～近世の産業」）
- ・まほろんSHOPの人気商品
- ・文化財研修のご案内（10～12月の研修）
- ・シリーズ収蔵品紹介12（福島市弓手原A遺跡出土の剥片）
- ・まほろんからのお知らせ（11月6日（日）は、まほろん秋まつり！）

（3）まほろん通信 vol.42（1 月 15 日発行）

- ・「まほろん森の塾」の活動
- ・体験学習（実技講座「ひょうたんから容器をつくろう」・実技講座「縄文クッキーをつくろう」）

- ・秋まつりの様子
- ・文化財講演会の様子（「災害と考古学Ⅰ・Ⅱ」）
- ・企画展示案内（まほろん収蔵資料展「器（うつわ）の変遷」）
- ・研修だより（専門考古学講座Ⅲ「土師器の見方（古墳時代中期）」）
- ・本年度のおでかけまほろん
- ・まほろんからのお知らせ（2月19日（日）は、まほろん冬まつり！）

6 文化財に関する研修事業

1. 研修実施の概要

平成 23 年度の研修は、東日本大震災の影響もあって実施回数を減らさざるを得なかったが、期日指定の基礎研修 6 回、専門研修 5 回と、臨時に館内や館外で行う特別研修 2 回の合計 13 回を実施した。平成 22 年度に研修を実施した日数は延べ 20 日、研修の参加者は 300 人である。

2. 研修実施状況

平成 23 年度に実施した研修の参加者の職業別内訳は以下のとおりである。最も参加の多かったのは市町村等で文化財の保護に携わる職員で 171 人、全体の 57% を占めている。教職員の参加者は 19 人で 6.3%、文化財関係の市民ボランティアは 10 人で 3.3%、その他一般人・学生が 100 人で 33.3% であった。

基礎研修は、別表に示したとおり考古学基礎講座などを 6 回実施した。

（1）「考古学基礎講座」は、文化財や考古学に関する基礎知識を学ぶ講座である。「考古学



考古学基礎講座Ⅰ

基礎講座Ⅰ」は、まほろんで収蔵する考古資料の中で、基準になる資料をもとに、各時代の基礎知識を学ぶ講座である。今回は当館職員が、まほろんで収蔵している弥生時代後期の天王山式土器を取り上げ、地域による特徴をわかりやすく講義した。「考古学基礎講座Ⅱ」は、「福島宝物」をシリーズテーマとし、県内出土の考古資料をもとに、考古学の基礎知識を学ぶ講座である。今回は、「古墳時代資料」と題し、当館職員が、古墳時代前期の副葬品についてわかりやすく解説した。

(2)「教職員発掘調査体験研修」は、福島県内で発掘調査を体験し、学校教育・社会教育に



教職員発掘調査研修

役立てる研修で、学校が夏休みの期間に開催している。今回は、当事業団が調査を行っている二本松市のトロミ遺跡の発掘調査現場を会場に、遺構の検出や調査方法を学んだ。講師は当館職員が務めた。

(3)「無形の文化財研修」は、無形の文化財の基礎知識と調査方法を学ぶ研修である。この研修では、当館職員が祭り・行事などの風俗慣習について講義した。

(4)「考古学と地方史研究」は、考古資料から見たそれぞれの地方の歴史を学ぶ研修である。今回のテーマは、「中通りの遺跡」と題して、



考古学と地方史研究

文化財研修実施状況

区分	研 修 名	講 師	実施日	受講者数	場 所
基礎研修	考古学基礎講座Ⅰ「まほろん収蔵の考古基準資料(弥生土器)」	芳賀英一(当館学芸課長)	6月18日	6名	館内
	考古学基礎講座Ⅱ「福島県の宝物(古墳時代資料)」	丹治篤嘉(当館主任学芸員)	7月9日	11名	館内
	教職員発掘調査体験研修	佐々木慎一(当館専門学芸員)	8月3日～5日	15名	二本松市
	無形の文化財基礎研修「風俗慣習(祭り・行事)」	大山孝正(当館主任学芸員)	10月16日	7名	館内
	考古学と地方史研究「中通りの遺跡」	柳沼賢治(郡山市文化・学び振興公社文化財調査研究センター大安場史跡公園施設課 課長)	2月12日	23名	館内
	文献資料と地方史研究「会津地方の古代文献資料」	坂内三彦(会津若松ザベリオ学園高等学校 教頭)	3月11日	6名	会津若松市
専門研修	専門考古学講座Ⅰ「須恵器について」	石本弘(当館専門学芸員)	9月10日	14名	館内
	文化財保護指導者研修会	佐々木長生(福島県立博物館 専門委員)	9月21日～22日	161名	南会津町
	考古学と関連科学「黒曜石の産地同定」	森嶋秀一(栃木県立博物館 特別研究員)	10月23日	9名	館内
	専門考古学講座Ⅲ「土師器の見方(古墳時代中期)」	高橋信一(当館専門学芸員)	12月18日	10名	館内
	史跡整備研修「国指定史跡宮畑遺跡の整備」	齋藤義弘(福島市教育委員会文化課埋蔵文化財係長 宮畑遺跡整備室主任)	2月25日	12名	福島市
特別研修	臨時館内研修	当館職員	1月14日	2名	館内

郡山市文化・学び振興公社文化財調査研究センター・大安場史跡公園施設課長の柳沼賢治氏が、中通り地方の古墳・土器・埴輪そして集落のあり方から、古墳時代前期の地域間交流がどのようなルートを通じて行われていたのかについて解説した。

(5)「文献資料と地方史研修」は、文献資料を通して県内の地方史を学ぶ研修である。今回は会津地方の古代文献資料を取り上げて、会津稽古堂において、会津若松ザベリオ学園高等学校教頭の坂内三彦氏が講義を行った。

専門研修は、専門考古学講座などを5回実施した。

(1)「専門考古学講座」は、文化財や考古学の専門的知識を深める講座である。「専門考古学講座Ⅰ」は、「須恵器について」と題して、当館職員が講義を行った。須恵器の変遷をまほろんに収蔵されている多くの須恵器資料を見ながら、時期を追って解説した。



専門考古学講座Ⅰ

(2)「文化財保護指導者研修会」は、市町村の文化財保護審議委員等を対象として行う研修会である。今回は南会津町の施設や遺跡・史跡を会場として、福島県立博物館専門員の佐々木長生氏の講演や史跡の見学を実施した。

(3)「考古学と関連科学」は、考古資料の分析や保存などに関する科学的知識を学ぶ研修である。今回のテーマは、「黒曜石の産地同定」で、栃木県立博物館特別研究員の森嶋秀一氏を講師に迎え、那須山系の高原山産の黒曜石の流通に



文化財保護指導者研修会（史跡見学）

ついて解説した。

(4)「専門考古学講座Ⅲ」は、「土師器の見方」の古墳時代中期編で、当館職員が講師を務めた。収蔵資料を観察しながら、研究史を整理して新しい研究方法を解説した。

(5)「史跡整備研修」は、福島市の東部勤労者研修センターを会場に開催した。講師を福島市教育委員会の齋藤義弘氏にお願いし、国指定史跡宮畑遺跡の整備事業について講義を実施した。

このほかに、「臨時館内研修」を1回実施した。なお、「体験学習支援研修Ⅰ」は、受講希望がなかったため実施を見送った。

7 文化財の活用に関する調査研究

1. 研究復元制作

(1) 研究の目的

復元品製作研究事業は、遺跡から出土した遺物や検出した遺構を対象とし、古代の技術や素材を検討し、今に甦らせるものである。

平成17年度から「金工史から見た古代石背・石城国設立の謎」をテーマとして、いわき市中田横穴出土馬具類を復元製作している。

この復元品製作研究では、開館時に復元した白河市菅内37号横穴墓から出土した馬具類との比較検討を行い、福島県の古墳時代金工技術の地域差から、その社会背景に迫り、さらには古代の石背・石城国の設立の謎を解明することを目的とする。

（２）制作した馬具類

いわき市中田横穴出土の馬具類のうち、平成17年度から平成22年度までに復元製作した馬具類は、金銅装木製鞍、尻繫、金銅装鐙（三角錐形壺鐙）、障泥、馬鈴である。これらについては、その都度、公開するとともに、経過を年報2006・2007・2008・2009・2010・2011に紹介してきた。

平成23年度は面繫を復元製作し、これにより全ての復元品製作は完了した。

（３）平成23年度の経過

平成23年度は面繫を製作するにあたり、3回の検討会を実施した。

平成23年9月11日；第1回検討会（於：いわき市考古資料館、出席者：渡邊一雄氏・馬目順一氏・松本友之氏・鈴木勉氏）

轡の設計、面繫のレイアウトを検討し、併せて平成22年度制作の胸繫のうち、房飾りの取り付け位置を検討した。

平成24年1月24日；第2回検討会（於：いわき市考古資料館出席者：鈴木勉氏）

轡の制作方法を検討し、製品の成型方法と手順の確認を行った。

2月17日；3回検討会（於：まほろん、出席者：鈴木勉氏）

面繫の寸法確認と馬の模型を使用した面繫の取り付け位置を検討した。

3月20日：納品。

（４）復元した資料

胸繫は金銅製帯金具3点、金銅製帯先金具2点、貝製飾金具2点、鉄製鉸具2点を復元製作し、それぞれ、革帯に取り付けた。さらに、金銅製帯金具と貝製飾金具の下に紐で昨年度製作の中鈴と小鈴をぶら下げ、隣り合う鈴の間にはふさを配した。

帯金具と帯先金具の鉤は、帯金具の2点が金張り、他は銀張りで、貝製飾金具はイモガイを加工して台座とし、銀張りした宝珠の鉄芯を天頂部に通した。

面繫の金具は、鉄地銀張り帯金具2点、金銅製帯先金具5点、鉄製鉸具2点、鉄地銀張り角形飾り金具（大）2点、鉄地銀張り角形飾り金



復元した面繫

具（小）1点、貝・金銅製飾り金具5点、鉄製轡1点、手綱（麻布製）1点を復元製作した。

帯金具の鉤は宝珠形で銀張りとし、帯先金具の鉤は、1点が金張りで、他は銀張りとした。

（５）今後の予定

復元製作した中田横穴出土の馬具類全てを今後の展示で公開する予定である。

8 ボランティアの運営

1. 募集

第2期の指定管理者選定の後、新しい「まほろんボランティア」の募集を行った。（募集期間：平成21年2月10日～3月5日）

申し込み資格は、①平成21年4月1日現在で18歳以上（高校生は除く）、②無償で活動できる方（保険料は当館負担）、③毎月2日間以上（1日2時間程度）活動できる方である。

2. 登録

当館に登録するボランティアの名称を『まほろんボランティア』と呼び、登録形態は「個人登録ボランティア」とする。

個人登録ボランティアの登録状況は別表のとおりである。

まほろんボランティア登録状況

平成23年度登録者数	43名 (男性27名・女性16名)
内訳	
1. 最年長	84歳
2. 最年少	22歳
3. 平均年齢	65歳 (男65歳、女64歳) (平成24年4月1日現在)

3. 活動内容

主な活動内容は、以下のとおりである。

- 屋内展示・野外展示の案内、解説
- 体験学習（実技講座・団体等）の支援
- イベント（餅つき大会等）の支援
- 体験学習器材の製作
- 植物観察ツアー
- まほろんオリエンテーリング
- アングイン編み
- 野外展示の火焚き管理（※）

なお（※）については、東日本大震災により施設が被災したため、23年度は実施しなかった。



まほろんオリエンテーリング

4. 受け入れ体制

当館のボランティア活動は、昼食や交通費を支給しない無償・無給制を原則としている。しかし、活動中の事故等を補償するボランティア保険の加入、ユニフォームの貸与、休息室の確保、各種研修の実施など、活動環境の整備を図っている。

また、学芸課に3名のボランティア担当を配置し、館側とのスケジュールや活動内容の調整を行っている。意見交換の場として、5月22日、10月1日、3月24日の3回まほろんボランティア連絡会を開催した。

9 その他

1. 年報 2011 の発行

当館の平成22年度1年間の活動をまとめた年報を作成し、市町村教育委員会や学校等の関係機関に送付した。

2. 運営協議会の開催

福島県文化財センター白河館運営協議会は、館長の諮問機関として、年2回開催している。

なお、平成23年度の委員6名は次のとおり。

- ・藤沼 邦彦：前弘前大学教授、再任
- ・日下部善己：前二本松市立岳下小学校長、再任
- ・平出美穂子：郡山女子大学准教授、再任
- ・藤田 充：西白河小中学校長連合協議会長 新任
- ・和知 延：白河市文化財保護審議会委員、再任
- ・佐藤 修：国立那須甲子青少年自然の家所長、再任

（1）第1回運営協議会

開催日：平成23年9月3日（土）

場所：会議室

協議内容

- ・福島県文化財センター白河館の概要
- ・平成22年度白河館の事業について
- ・東日本大震災による被害状況について
- ・平成23年度白河館の事業について
- ・平成22年度来館者アンケートの結果について
- ・その他

（2）第2回運営委協議会

開催日：平成24年3月10日（土）

場所：会議室

協議内容

- ・平成23年度白河館の運営状況について
- ・平成24年度白河館の事業について
- ・その他

3. 緊急雇用創出基金事業

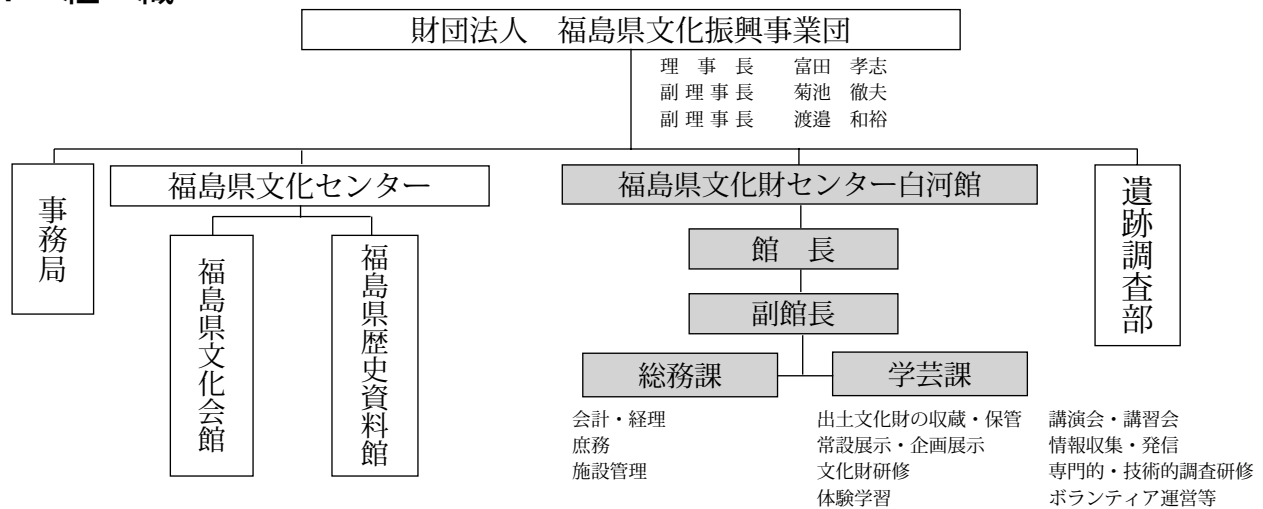
緊急雇用創出基金事業により、当館収蔵の遺物等の写真撮影を実施した。東北横断自動車道遺跡発掘にかかる1,868カットを撮影した。

4. 博物館学学外実習

県内の大学生、県内出身の大学生を対象として博物館学学外実習を行った。

第3章 平成23年度の組織と予算

1 組 織



在籍職員名簿

職 名	氏 名	職 名	氏 名
館 長	菊 池 徹 夫	専門学芸員	菅 原 祥 夫
副 館 長	吉 田 豊 吉	主任学芸員	吉 野 滋 夫
総務課	課長（兼務）	主任学芸員	國 井 秀 紀
	副 主 幹	主任学芸員	大 山 孝 正
	副 主 査	主任学芸員	丹 治 篤 嘉
	事務補助員	主任学芸員	稲 村 圭 一
	物品販売補助員	主任学芸員	轡 田 克 史
	物品販売補助員	主任学芸員	山 田 英 明
学芸課	課 長	アテンダント	高 山 千 春 (2)
	副 主 幹	アテンダント	佐 藤 あかね
	専門学芸員	アテンダント	河 西 久 子
	専門学芸員	アテンダント	小 泉 令 子
	専門学芸員	アテンダント	独 鈺 亜由美
	専門学芸員	職員総数	24 名

(1) 平成23年5月31日転出 (2) 平成24年2月29日退職

2 予 算

管理運営費会計

<収入>

・指定管理者委託料	238,424,000 円
・雑収入	125,420 円
・合計	238,549,420 円

<支出>

・文化財センター白河館管理運営費	238,549,420 円
・合計	238,549,420 円

物品販売会計

<収入>

・事業収入（物品販売収入）	3,350,137 円
・雑収入	53,681 円
・合計	3,403,818 円

<支出>

・事業費	3,235,515 円
・租税公課費	63,171 円
・合計	3,298,686 円

第4章 まほろん施設の概要

施設名：福島県文化財センター白河館

(愛称：まほろん)

所在地：〒961-0835

福島県白河市白坂字一里段 86 番地

設置者：福島県

開館：平成13年7月15日

管理機関：財団法人福島県文化振興事業団

◎建築概要

1. 敷地面積：51,827.51 m²
2. 建築面積：本館・収蔵庫棟 5,999.955 m²
体験学習館 133.627 m²
3. 延床面積：本館・収蔵庫棟 5,399.815 m²
(本館 2,400.046 m²、収蔵庫棟 2,999.769 m²)
体験学習館 92.71 m²
4. 構造
 - ①本館棟 鉄筋コンクリート造
 - ②収蔵庫棟 鉄骨造
 - ③体験学習館 木造
5. 駐車台数等
 - ①一般駐車場 91 台 (うち身障者用 4 台)
 - ②大型車駐車場 10 台
 - ③臨時駐車場 40 台
 - ④職員駐車場 21 台
 - ⑤駐輪場 28 台
6. 地域地区：都市計画区域内、無指定

◎設備概要

1. 電気設備：
 - ・受電方式／高圧 6.6KV 1 回線受電、変圧器容量／400KVA、予備電源／非常発電 50KVA
 - ・非常照明設備・誘導灯設備：
 - 建築基準法に基づいて設置
 - ・放送設備：非常放送と兼用、出力 240W
 - ・電気時計設備、テレビ共同視聴設備、インターホン設備
 - ・電話設備：
 - 電子交換外線 4 回線 (ISDN) 内線 55 回線
 - ・監視設備：分散型総合管理システムにより、受電設備・防災設備・空調設備を遠

隔発停制御及び計測監視

2. 空調設備

・空調方式

一般系統／ガスエンジン空冷 HP マルチパッケージ方式 (一部空冷 HP) + 静止型全熱交換器、特別収蔵庫系統／単一ダクト (空冷冷専パッケージ + 電気ヒーター + アルカリ除去フィルターユニット) 方式、常設展示室・特別展示室／単一ダクト (ガスエンジン HPP) 方式

・熱源：都市ガス (ガス種別：プロパン)

3. 衛生設備

- ・給排水設備：給水／水道直結方式、給湯／局所式、排水／汚水・雑排水；屋内分流・屋外合流 (最終桝でポンプアップ) 方式で下水道本管へ放流
- ・雨水；側溝放流
- ・多目的便所：屋内 1 箇所 (男女別)、屋外 1 箇所 (男女別)、トイレ呼出設備付

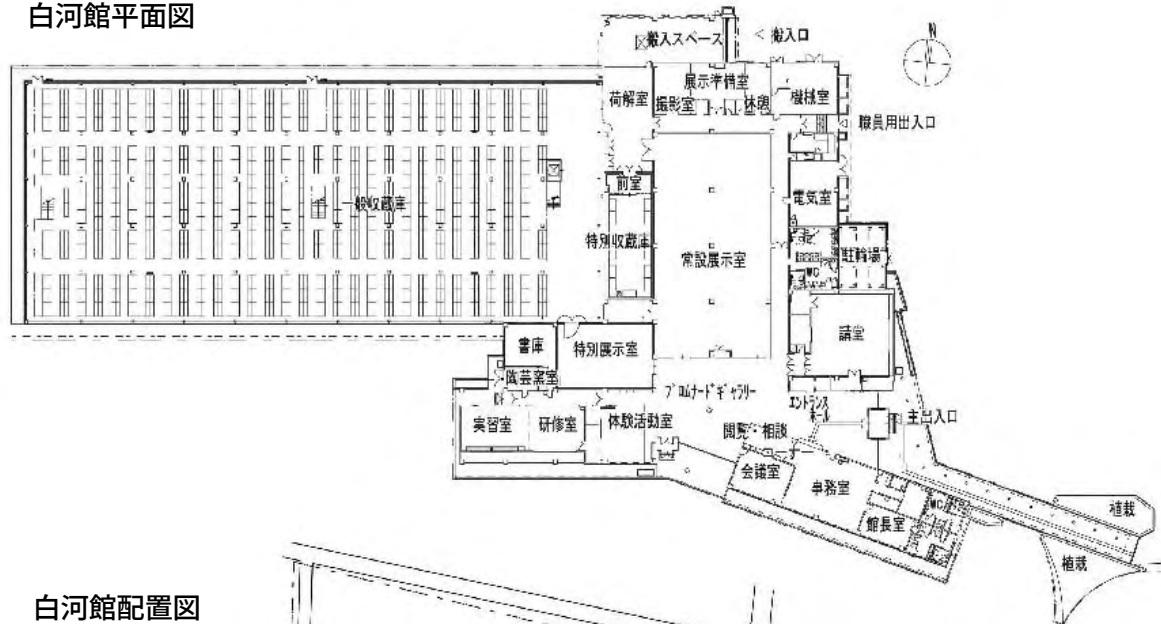
◎工期 着工：平成11年7月12日

完成：平成12年10月16日

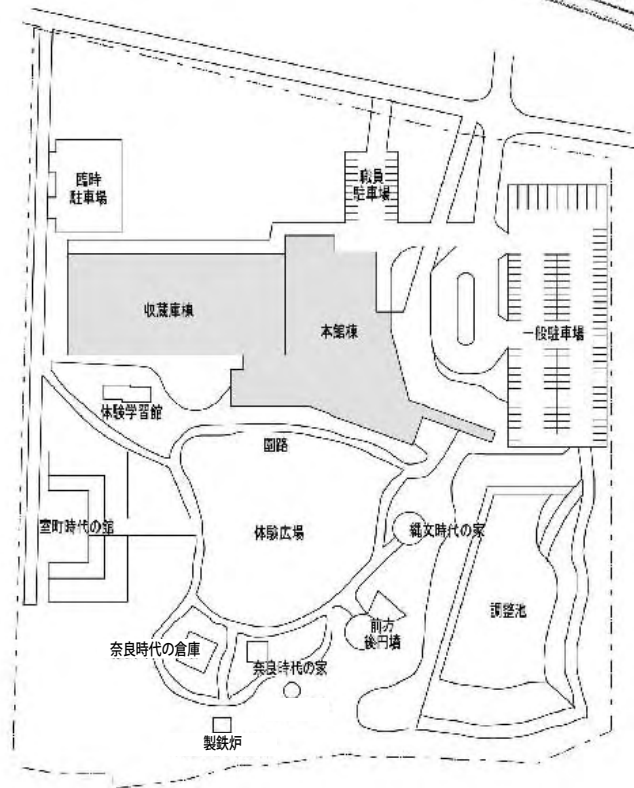
◎総建設費 3,300,625 千円

- ・内訳 建築費 2,690,848 千円
- 公有財産購入費 222,095 千円
- その他の経費 387,682 千円

白河館平面図



白河館配置図



主要諸室面積表 (㎡)

室 名	面積	備 考	室 名	面積	備 考
常設展示室	510		書庫	53	
特別展示室	126		搬入スペース	115	
講堂	143		荷解室	103	
研修室	51		特別収蔵庫	104	
実習室	61		特別収蔵庫前室	21	
体験活動室	64		一般収蔵庫	2,761	積層棚 2 層目部分 2,263
陶芸窯室	16		警備員室	22	
閲覧・相談コーナー	25		休憩室	25	
エントランスホール・ブロードワードギャラリー	390		展示準備室	43	
事務室	104		撮影室	39	
会議室	47		その他	516	
館長室	36		合 計	5,400	
印刷室	16				
救護室	9		体験学習館	93	

第5章 まほろんの条例・規則

1 福島県文化財センター白河館条例

(平成13年3月27日 福島県条例第43号)

(設置)

第一条 地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第二百四十四条第一項の規定に基づき、文化財等を保管し、又は活用することにより、県民の文化の振興に資するため、福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)を設置する。

(位置)

第二条 白河館は、白河市白坂字一里段八十六番地に置く。

(平一八条例五一・一部改正)

(業務)

第三条 白河館において行う業務は、次のとおりとする。

- 一 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。
- 二 文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。
- 三 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。
- 四 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 五 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。
- 六 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。
- 七 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務に関すること。

(指定管理者による管理)

第四条 白河館の管理は、福島県公の施設の指定管理者の指定の手續等に関する条例(平成十六年福島県条例第六十八号)の定めるところにより教育委員会が指定した法人その他の団体(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

(平一七条例一〇七・追加)

(指定管理者が行う業務の範囲等)

第五条 指定管理者が行う業務は、次のとおりとする。

- 一 第三条各号に掲げる業務に関すること。
- 二 白河館の維持管理に関すること。
- 三 前二号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務に関すること。

2 指定管理者は、業務の遂行に当たっては、県民の平等な利用を確保しなければならない。

3 指定管理者は、業務の遂行上知り得た個人情報(個人に関する情報であつて、特定の個人が識別され、又は識別され得るものをいう。)その他の情報を適切に取り扱わなければならない。

(平一七条例一〇七・追加)

(遵守事項)

第六条 白河館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 一 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- 二 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 三 館内において、展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 四 所定の場所以外の場所において、喫煙又は飲食を行わな

いこと。

五 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。

六 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(平一七条例一〇七・旧第四条線下)

(入館の規制等)

第七条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

- 一 前条の規定に違反した者
- 二 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者
- 三 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(平一七条例一〇七・旧第五条線下・一部改正)

(使用料の不徴収)

第八条 白河館の使用料は、徴収しない。

(平一七条例一〇七・旧第六条線下)

(委任)

第九条 この条例に定めるもののほか、白河館の管理その他この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(平一七条例一〇七・旧第八条線下)

附 則

この条例は、教育委員会規則で定める日から施行する。

(平成一三年教委規則第一六号で平成一三年七月一五日から施行)

附 則(平成一七条例一〇七号)

- 1 この条例は、平成一八年四月一日から施行する。
- 2 改正後の福島県文化財センター白河館条例第四条の規定による指定管理者の指定の手續は、この条例の施行の日前においても行うことができる。

附 則(平成一八年条例第五一号)

この条例は、公布の日から施行する。

2 福島県文化財センター白河館条例施行規則

(平成13年3月27日 福島県教育委員会規則第3号)

(休館日)

第一条 福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)の定期の休館日は、次のとおりとする。

一 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和二十三年法律第七十八号)第三条に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときを除く。

二 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。

三 一月一日から同月四日まで及び十二月二十八日から同月三十一日まで

2 指定管理者(福島県文化財センター白河館条例(平成十三年福島県条例第四十三号)第四条に規定する指定管理者をいう。以下同じ。)は、必要があると認めるときは、あらかじめ福島県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)の承認を得て、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

(開館時間)

第二条 白河館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時までとする。ただし、指定管理者は、必要があると認めるときは、あらかじめ教育長の承認を得て、これを臨時に変更することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

(文化財等の特別利用)

第三条 白河館が保管している文化財等を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、教育長の承認を受けなければならない。

(委 任)

第四条 この規則に定めるもののほか、白河館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、福島県文化財センター白河館条例（平成十三年福島県条例第四十三号）の施行の日から施行する。

(施行の日＝平成一三年七月一五日)

附 則（平成一七年教委規則第一六号）

この規則は、平成十八年四月一日から施行する。

まほろんの利用案内

開館時間 ・ 午前 9 時 30 分～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）

休 館 日 ・ 毎週月曜日（国民の祝日の場合はその翌日、GW・夏休み期間中は開館）
・ 国民の祝日の翌日（ただし土・日にあたる場合は開館）
・ 年末年始（12 月 28 日～1 月 4 日）

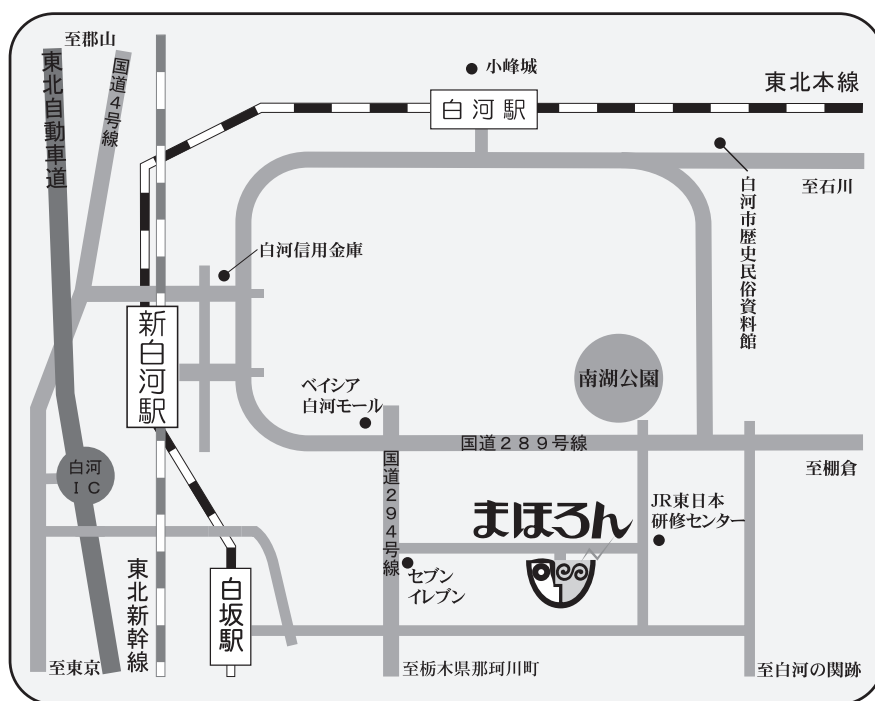
入 館 料 ・ 無料

交通案内 ・ JR東北本線白河駅、JR東北新幹線新白河駅から福島交通バス（白坂駅経由白坂・白坂駅行き）「まほろん」バス停下車

・ JR東北本線白河駅、JR東北新幹線新白河駅からJRバス（棚倉行き）「南湖公園」下車徒歩25分

・ 東北自動車道白河I.C. から車で20分

そ の 他 ・ 屋内、屋外に多目的トイレを備えています。車いす、ベビーカーも用意しています。



福島県文化財センター白河館

年報 2012

平成 24 年 8 月 24 日発行

編集・発行 (財) 福島県文化振興事業団
福島県文化財センター白河館

〒 961-0835 白河市白坂一里段 86

TEL 0248-21-0700 FAX 0248-21-1075

<http://www.mahoron.fks.ed.jp/>
